





## 第2章

---

# 貧困の定義

私に何が貧困かと聞かないで下さい。  
あなたは私の家の外で貧困を目にしているのだから。  
私の家を見て、穴の数を数えてごらん下さい。  
私の道具や私が着ている服をご覧下さい。  
全てを見て、あなたが見たことを書いて下さい。  
それが貧困なのです。

—ケニアの貧しい男性, 1997

貧困とは屈辱、誰かに依存している感覚、  
助けを求めても、人々の無礼、屈辱、無関心を  
受け入れるしかないという感覚のことだ。

—ラトビアで実施されたPPAの報告書より, Latvia 1998

本章は、PPAで明らかになった、貧困に関する貧しい人々による定義について論じる。私達は、帰納的な方法を用いて、貧しい人々にとって重要である貧困の次元を明らかにし、貧しい人々が考える貧困の特性を捉えることとする。このため、貧しい人々にとって何が重要か、貧困削減における特定のセクターの重要性、地域又はジェンダーの違い、さらに、貧困を理解する上で最適な概念の枠組みに関して、先入観や仮定なく作業を進めることが必要になる。結果的には、本章の構成及び私達を使用する概念は、今回の貧困の定義に関する分析結果によって決まることになった。

主な調査結果は、以下の6つである。

- ▶ 多くの要因が、貧困を相互に関連する多面的な現象としている。
- ▶ 貧困は通常、食料が第1だが、他にも住居、土地、そしてその他の資産など、物質的豊かさを満たすために必要なものが欠けている状態を指す。言い換えると、貧困とは、様々な資源が不足しているため飢餓や物質的欠乏に陥ることである。
- ▶ 貧しい人々による貧困の定義を検証すると、貧困の心理的側面の重要性が明確になる。貧しい人々は、意見が言えず、無力で、依存しているために、搾取されていると強く意識している。そして、彼らは貧しいために、救済を求めようとしても、民間又は公的機関から粗雑・屈辱的・非人間的な扱いを甘受しなければならないのである。また、貧しい人々は、社会規範をやむを得ず遵守できないこと、伝統・祭礼・儀式を通じて文化的アイデンティティを維持できないことによる痛みについて述べている。彼らが地域社会生活に十分に参加できず、それが社会的関係の崩壊につながっている。
- ▶ 農道等の道路、交通機関、水道といった基礎的なインフラストラクチャーの欠如は、重大な問題となっている。東欧や旧ソ連諸国では、電力が利用できないことが厳しい冬を乗り切る上での大きな問題となっている。
- ▶ 病気は、貧しい人々にとって、恐れとなっていることが多い。なぜなら、不十分な医療施設、高い医療費、病気による失業が原因で、これまで多くの家族を困窮させてきたからである。また、読み書きの能力は重要だと考えられているが、学校教育の重要性については見解が分かれている。学校教育は、時に高く評価されるが、貧しい人々の生活とは無関係なものである場合が多い。
- ▶ 貧しい人々は、収入より財産を重視する。また、物質的・人的・社会的及び環境面での資産がないことが、危機に際しての脆弱性と関連していると見ている。

本章は、まず貧困の多面性、物質的豊かさ、及び精神的豊かさについて論じる。

次に、インフラストラクチャーの役割と貧しい人々の財産について論じる。財産に関する議論は、物質的、人的、社会的、及び環境上の資産を含む。最後に本章は、東欧と旧ソ連で新たに生じた多数の貧困者に関する事例にも触れる(事例研究2.1)。

## 貧困とは多面的なもの

貧困とは様々な側面を持つ社会現象である。<sup>1</sup> 貧困の定義と原因は、性別、年齢、文化、その他の社会・経済事情によって様々に捉えられている。例えば、ガーナの農村部や都市部に住む男性は、貧困という言葉から物質的資産の欠如を連想する。その一方で、ガーナの女性は、まず不安定な食糧事情を思い浮かべる。同様に、世代間の相違も存在する。ガーナの若者は、収入を生み出す能力を持つことが最も重要な資産であるとみなすが、年長者は、伝統的農業生活を営めることが最も重要であるとする(Ghana 1995a)。

個人の地位や居住地が異なれば、貧困の原因についての見方も異なる。例えば、マダガスカルMadagascarの農民は貧困を干ばつと結び付け、都市に住む貧しい者は価格の上昇や雇用機会の減少を、そして、富める者は「交易条件の悪化や、マダガスカルMadagascarの伝統や規範の喪失、特定の階級や集団における気力(モチベーション)の欠如、価格自由化と通貨の下落、教育の欠如、統治の欠如」と貧困をそれぞれ結び付けている(Madagascar 1996)。

貧困とは、決してある1つの要素が不足したために起きるのではなく、貧しい人々の経験と貧困の定義によく見られるように、多くの要因の組み合わせによって引き起こされる。フィリピンのミンダナオ地方に住む女性は、「食べる物が無い時に、子供達のためにバナナをゆでます。農業省がトウモロコシの種を配給すると、種を蒔く代わりにそれを調理します」と述べている(Philippines 1999)。家族はこの種を得るためにお金を借りるが、借金を返すことができないため、貧困の悪循環は止まることがない。

アルメニアでは、季節の変化・貯蓄の不足・急な現金の必要性が相互に作用し、農民は貧困に苦しみ続ける。

夏や秋のまだ早い頃、農民は生活のために、低価格なのにもかかわらず、収穫物を物々交換したり売ったりする。例えば、2kgの蜂蜜が小さな子供用のセーターと交換され、10kgのチーズが靴1足と交換される。ある父親は「実際、8月から9月にかけては収入がなく、物々交換をして、物をお金のように使っていました。去年の8月中旬

に、私は収穫したジャガイモを、カパンに売りに行き、9月に子供達が学校へ行くために必要な物を買いました。だからお金に困りました。もし、もっとジャガイモを売ることができたら、もっと収入が入っていたでしょう。いつもはジャガイモや小麦をコートと交換しますが、今は交換する物が何もありません」と説明している。

—アルメニアで実施されたPPAの報告書より、Armenia 1996

グアテマラで、農場労働者として雇われているカックチケル族の1人は「この8年間、過去最悪の貧困に直面していました。雨が降ると仕事がなくなり、全ての物価が上昇するため、私達は食料が買えず、苦しんだのです。この地域社会では、自分の稼ぎでより良い暮らしを送ることに、それほど望みを持ってはいません。色々な物が不足していますが、食料不足が1番の問題です。また、私達は生活する場所や家賃を支払う手段がありません」と述べている (Guatemala 1994b)。

貧困層が富裕・中流・貧困を分ける際に使う基準や脆弱性の議論の中に、貧困の複雑で多面的な側面がはっきりと表れている(ベトナムの富裕と貧困の指標はBox 2.1参照)。

貧しい人々は、貧困に関して、それぞれ微妙に異なる興味深い定義づけを行っている。実際に、これらの分類の中には貧困研究者にとって馴染み深いものもある。スワジランドの団体は「一時的な貧困者」と「新たな貧困者」とを区別している。一時的な貧困者は、「干ばつ前には食べることができたが、現在は飢えている者、例えば以前は繁栄していた綿農家で、今では私達のように苦勞をしている人々」と定義される。また、新たな貧困者は、「以前は裕福であったが、盗難にあい家畜を失った者や、夫が家畜を残していってくれたが、今では子供を学校に通わせるため、売却できる資産を何も持たない未亡人」と定義されている (Swaziland 1997)。

また、貧困の定義に関する重要な相違は他の点でもみられ、中でも依存の程度は貧困における重要な分類基準の1つとなっている。例えば、ガーナの貧しい人々は、富裕層と貧困層を区別するだけでなく、財産や依存度によって、貧困の程度も分類する。富裕層とは、「子供達にきちんと食事を与えることができ、将来家族に相続される良好な家屋に住み、他人を援助することができる人々」とされる。その対極に、最貧困者や、年間を通した貧困者、哀れな者と呼ばれる慢性的に飢餓に苦しむ人々が存在する (Ghana 1995a)。

最貧困者は、大まかに2つの集団に分けられる。1つ目は「神の貧困者」であり、彼らは、身体障害、高齢、夫との死別、子供がいなかったといった明確な救済策のない要素を持つ集団である。2つ目は「資源を持たない貧困者」である。この集団に

## Box 2.1 ベトナムの貧困者が考える家庭財産の指標概要

### 比較的裕福な家庭

- ▶ 15年ごとに修繕される堅固で安定した家屋を所有すること
- ▶ オートバイか自転車、又は両方の交通手段を持つこと
- ▶ テレビかラジオ、又は両方を所有すること
- ▶ 子供を学校に通わせることができること
- ▶ 収穫物を食べてしまったり、売ったりしても金銭に困らないこと
- ▶ 貯金ができること
- ▶ 何かの役に立ちそうな植物や木々のある庭を持つこと

### 中流家庭

- ▶ 10年間は修繕の必要がない安定した家屋を持つこと
- ▶ テレビかラジオ、又は両方を所有すること
- ▶ 1年を通して十分な食料を持つこと
- ▶ 子供を学校に通わせることができること
- ▶ 井戸を持つか、又は水を簡単に利用できること

### 貧困家庭

- ▶ 泥でできていることが多い、不安定な家屋に住むこと
- ▶ テレビやラジオを所有しないこと
- ▶ 貯金をすることができないこと
- ▶ 子供を学校に全く、又は卒業まで通わせることができないこと
- ▶ 1年に1、2ヶ月食料が不足することもあるが、通常は次の収穫まで十分な食料を持つこと
- ▶ 周囲の天然資源を利用することができないこと

### 最貧困家庭

- ▶ 多くの場合、2、3年おきに建て直す必要のある、非常に不安定な家屋に住むこと
- ▶ 井戸を持たず、新鮮な水を簡単に利用できないこと

出典：Vietnam 1999a

は、夫を失った移民女性や土地を持たない貧困者が含まれる。富裕者と最貧困者の両極端の間には、「貧しいが勤勉な労働者、それほど貧困でない者、その日暮らしではない者」が存在する。

ウガンダの女性は貧しい人々を、貧困者、最貧困者、他人に依存して生活する者の3種に分類する。貧困者とは、食料や賃金を得るため、主に他人の土地や船で働くが、小さいとはいえ自分の所有する土地に建てた小屋で生活する人々を指す。最貧困者は家を所有せず、食料のために働き、富裕者の土地で生活する人々である。他人に依存して生活する者とは、何も所有せず、働くことができないため、公共サービスや他からの援助に完全に頼っている独身の母親、身体に障害のある者、高齢者等のことである(Uganda 1998)。

## 物質的豊かさ

空腹が満たされることはなく、喉の渇きが癒されることもありません。  
疲労の限界を超えるまで眠りにつくこともできないのです。

—セネガルで実施されたPPAの報告書より, Senegal 1995

それは生活の費用であり、低い賃金であり、働き口の不足です。そして薬も、食べるものも、着るものもないことです。

—ブラジルで実施されたPPAの報告書より, Brazil 1995

朝、何も食わずに学校に行きます。昼も昼食はありません。夜、ほんの少しの夕食を食べますが、それでは足りません。だから、他の子が食べている時、じっと見つめてしまいます。そして、その子が何もくれなかったら、自分は飢えて死んでしまうと考えます。

—ガボンの10歳の子供, Gabon 1997

## 食糧安全保障

幾度となく、彼女はどちらが食べるかを決めなくてはならなかった。  
彼女か、それとも息子か。

—ウクライナで実施されたPPAの報告書より, Ukraine 1996

貧困の物質的側面は広く知られている。飢餓と不安定な食料供給は、現在でも主要な問題である。貧困に苦しむ家族にとって、基本的な食料、水、住居を手に入れることが、日々の闘いとなることもある。そしてこの闘いは、失業や不完全

就業、生産的な土地やその他の収入を生む資産がないときには、より厳しいものとなる。ベトナム (Vietnam 1999a) では、次の貧しい男性の言葉に表されるように、食料不足の問題が頻繁に起こっている。

朝は、サツマイモを食べて働きに出かける。

昼は、何も食わずに出かける。

そして夜は、サツマイモを食べて眠る。

—ベトナムで実施されたPPAの報告書より, Vietnam 1999a

グアテマラの貧しい人々は、貧困を「十分な食料と住居を持たないこと」「施しに頼ること」と定義している (Guatemala 1997a)。カメルーンの貧しい人々は、「家族の飢え、栄養不良で回数の少ない食事、わずかで不規則な収入のうち食費の占める割合の高さ、全く、もしくはほとんどないといえる現金収入、無力さ、そして発言力のなさ」という5つの点において、自分達と他者とを区別している (Cameroon 1995)。モルドバの貧しい人々は、「貧困の最悪な側面は、飢え、不健康、衣類の不足、粗末な居住環境だ」と声をそろえて言う (Moldova 1997)。

食事の質、量、回数を軽減しながら困難な状況と闘っている家庭に関する記述が、PPAには多く見られる。例えば、ナイジェリアにおける貧困とは、収穫前の不安定な食料供給や、主にデンプン質の単調な食事を意味する。極めて貧しい人々は、すでに古く腐りかけた食べ物しか口にすることができないのである (Nigeria 1995)。スワジランドとザンビアの貧しい人々は、食料がないときには茂みからあさった植物の根や葉といった、普段は口にしないようなものに依存している (Swaziland 1997; Zambia 1994)。マダガスカルの最貧困層とは、定期的な食事を諦めざるをえない人々のことを指す (Madagascar 1996)。一方、グアテマラの最貧困層とは、生きるために、目に付くものは何でも食べざるをえない人々のことである (Guatemala 1993)。カンボジアのプノンベンにあるスラム街に住む人々は、1日の食事を3回から2回、そして時には1回へと減らしている (Cambodia 1998)。ウクライナにおける貧困の最悪な点は、飢えや栄養失調による健康への影響だと言われている。この国の農村に住む人々の中には、まだ飢えてはいないのだから本当に貧しいとは言えない、と主張する人もいる (Ukraine 1996)。トーゴでは貧困層とはすなわち、栄養失調のために働くことができない人々を指す (Togo 1996)。

## 雇用

裕福な人は1つの定職を持っています。一方、貧しい人は「豊かな」職務経験を持っています。

—パキスタンの貧しい男性, Pakistan 1996

公共部門の縮小により、雇用機会は消えつつある。

—ウクライナで実施されたPPAの報告書より, Ukraine 1996

貧しいということはすなわち、いつも疲れ果てているということである。

—ケニアで実施されたPPAの報告書より, Kenya 1996

特に土地を持たない者や小作農に従事できない者にとって、定常的な賃金労働に就けるかどうかということが、貧困を定義する主な要因となる。しかし、貧しい人々が定職を見つけるのは、農村部と都市部のいずれにおいても困難である。そのため、土地を持たない貧しい人々は、未保証・低賃金という条件の下、インフォーマルな、その時限りの、或いは日当制で働かざるを得ない。

南アフリカでは「安定した仕事を持たない者」が貧困者であるとみなされ、貧しい地域社会では、正式の雇用が広く欠如しているとされている。そのため、彼らは「1つの仕事ではなく、小規模で、数多くの危険な仕事」に従事している(South Africa 1998)。エチオピアでは、雇用機会が不安定であり、失業による脆弱性は増しているようである(Ethiopia 1998)。ガーナの都市部に住む貧しい人々によると、インフォーマルセクターに依存する人々の増加のために、同セクターの仕事に新たに就く機会が減少傾向にあり、また条件も悪化している(Ghana 1995b)。セネガルでは、長期にわたる経済の悪化により、インフォーマルセクターの収入は激減している(Senegal 1995)。ラトビアのある貧しい人は、石膏細工の職を失ったために、家族に見捨てられたと述べている。現在彼は、食事の配給付きか、時として、小額の収入を得ることができる職に就いている(Latvia 1997)。

モルドバ、グルジア、パキスタン等では、女性は家庭の収入を主要な拠所としている。しかし、何カ国においては、女性はありとあらゆる種類の活動に携わっていると報告されている。これらの職業には、インフォーマルな産業労働や商業・サービス産業、海外への出稼ぎ労働といった伝統的に男性の仕事とみなされてきたものに加えて、有償の家事労働(家政婦等)も含まれている(Moldova 1997; Georgia 1997; Pakistan 1993)。

## 精神的豊かさ

貧しい人々は、偉大な者、つまり富める者に仕えるために存在し続けなくてはならない。神はこのように物事を創造されたのである。

—ブラジルで実施されたPPAの報告書より, Brazil 1995

貧困とは、押し潰されるほどの日々の重荷や未来に対する絶望と恐れに捕われ、自由がなくなることである。

—グルジアで実施されたPPAの報告書より, Georgia 1997

貧困とは本来物質的なものであるが、その一方で、子供に食事を与えることができないという心理的苦痛や、次の食事にありつけるかどうかへの不安感、食料を持たない恥辱感といった強烈な価値感に、精神的な影響を及ぼす。ギニアビサウに住むある父親は、「(家族に持ち帰る)食べ物がない時は大抵、近所の人や友達から分けてもらっています。そんな時、子供の前に立っていることが恥ずかしくなるのです。失業中は肩身が狭く、これはひどい状態です」と述べている(Guinea-Bissau 1994)。子供が飢える姿を見なくてもすむように、自分の食事を抜き、不安定な食料供給に耐えている、と頻繁に親達は話す。ブラジルのある親は、貧困とは「家に帰り、お腹をすかせた子供を見ても、食べさせる物がないことです」と述べている(Brazil 1995)。また、タンザニアのある母親は、「毎日お腹をすかせている子供に、会わせる顔がありません」と述べている(Tanzania 1999)。

乳児や家族の生存の可能性を少しでも高めるために決断する乳児の遺棄には、心の痛みが伴う。グルジアの首都トビリシでは、子供を売って残りの子供を養おうとする母親や、産科病棟に置き去りにされた乳児に関する報告が増加している。ある貧しい人は、家族を養うために自らの子供を500米ドルで売った女性の話を聞いたことがある、という。また、別の回答者は、トビリシの中央駅近辺で「この子は飢えて死んでしまう。お金は払わなくてもいいので連れて行って下さい」と言いながら、子供を乗客に売ろうとしている女性を目撃している(Georgia 1997)。

ウガンダの女性は、「貧しい人々は公共の場で発言権を持たず、劣等感を感じている。食べる物がないため家族は飢えに苦しみ、家庭には衣服もなく、将来もない」と述べている(Uganda 1998)。貧しい人々は時に安らぎや支えを求め、神にすがる。パキスタンのある貧しい人は、「神は岩場の小さな虫にさえ食料を与えているのだから、私達が生きていくための食料くらいはあるはずだ」と言う(Pakistan 1996)。ネパールの貧しい人々は、恐怖について、「不正を働く地主に対する恐怖、警察官と問題を起こすことへの恐怖など、貧困層は常に富裕層による

搾取の恐怖にさらされている」と述べている。また、女性は独りで出歩く恐怖について語っている。「貧しい人々は人間の幸福度を分類する際に、精神的側面を強調する。例えば、(困難と向き合っている)哀れで貧しい人々、(何とか生計を立てている)頑張っている貧しい人々、そして、幸せな人々、である」(Nepal 1999)。

貧しいというだけで、しばしば嘲笑にさらされる。ラトビアの貧しい人々は、「助けを請うことを求められていると強く感じることや、社会支援事務所職員を礼を欠いた、軽蔑的かつ妙に教え諭すような対応に耐えなければならないことに、屈辱を感じた」と言う(Latvia 1998)。

貧しい人々は貧困がもたらす恥辱、汚名、屈辱を嘆く。ラトビアの両親は、子供が学校で無料の昼食を配給されたり、擦り切れた古着を身に着けたり、教科書のコピー(複写したもの)を使わざるをえないといったことから受ける屈辱感を嘆いている。「子供に配給される無料の昼食は、他の子供とは別のテーブルで支給され、質も悪い。両親の中にはそういった昼食の代金を払うために、地域社会の作業に携わる者もいる。しかし、他人のお金で食べていると他の子がはやしたてると、子供達は屈辱感を覚える」(Latvia 1998)。ウクライナの教師によると、流行の服を着た金持ちの子供と、授業中、飢えのために気を失うこともある貧しい子供とは、簡単に見分けがつくと言う(Ukraine 1996)。アルメニアやグルジアでは、古着を着用する恥ずかしさから、登校拒否に陥る子供の心の傷を、両親達が嘆いている(Armenia 1996; Georgia 1997)。

## 権力と声

裕福な人とは、収穫の一部を貯蔵し、価格が上昇した時に売ることができる人々のことをいうのです。

—ニジェールの貧しい男性, Niger 1996

「善い行い」はわかっているが、実行に移すことができない。つまり、成すべきことは分かっているが、成す術が無いのである。

—ガーナで実施されたPPAの報告書より, Ghana 1995a

土地を所有している人もいますが、肥料を買うことができません。織工として働いても、十分な収入にはならず、日雇い労働をしても、それに見合った収入を得ることはないのです。

—グアテマラのカックチケル・インディアン(Cackchiquel Indian), Guatemala 1994b

貧困とは、1日18時間以上働いても、私と夫と2人の子供を養えるほどの稼ぎにならないことです。

—カンボジアの貧しい女性, Cambodia 1998

貧困について説明する際、貧しい人々は、絶望感、無力感、恥辱感、疎外感と言う言葉を用いることが多い。ガーナでは「善い行いはわかっているが、実行に移すことができない」と言われている。例えば、「もしどこかに親戚がいて、その人が亡くなったとする。その場合、何をすべきか分かっているが何もすることができず、亡くなった人の家族にとって物事は悪い方向へと進んでいく」(Ghana 1995a)。

カメルーンでは、貧困とは「無力感であり、自らの声が誰にも届かないこと」と特徴づけられている(Cameroon 1995)。ウガンダの貧しい年長者は、「貧困は、今や、強大な力を持っています。政府や大きな教会がどうかその拡大を抑えているという状況です。だから、私達はある種の無力感に襲われるのです。貧困そのものより悲痛である無力さに」と述べている(Uganda 1998)。

マダガスカルでは、力のない農民の持つこの無力さこそが、欲求不満と憤慨の原因である。「貧しい人々は、生産物の買入れ業者の餌食となっている。彼らは、生産価格を低く抑えることで農民の弱みに付け込む。他に手立てのない農民はそれを受け入れるしか道はない。例えば、バニラの生産者が受け取る収入は輸出価格のおよそ4%にしか過ぎない。しかし、農民は作物の価格を吊り上げる交渉力を持たないのである。ライチと米の場合も同様で、業者は最低価格で買い上げ、最高価格で売ることができる。最終的には、裏切りと拒絶という感情が残るだけである」(Madagascar 1994)。

東欧や旧ソ連では、腐敗が蔓延しており、貧しい人々は無力さと絶望感に打ちひしがれている。これは、民間企業や集団農場で雇用を得ている場合にも見られる。グルジアの貧しい農民は、農地の民営化と窃盗を同一視している。つまり、最良の土地は警察官や裁判官、学校の理事、実業家といった人々の手に渡り、貧困者に与えられるのは灌漑設備が整備されていない、塩分を含んだ痩せた土地だけである。このような土地は、大抵、家から10～12km離れたところにあるため、その土地で働いたり、収穫物を盗人から守ることは困難である(Georgia 1997)。

モルドバの貧しい人々は、独立、民主主義そして市場経済への移行を、社会正義の喪失のプロセスとみている。集団農場で働く農民は、管理者から穀物の割り当てをごまかさされ、トラクターなどの農器具類の使用を阻まれている、と報告している(Moldova 1997)。アルメニアの貧しい人々は、「民営化が進められていた頃、有力なコネがある人達は5、6頭の牛を手に入れましたが、他の者は何も得ること

ができませんでした。集団農場で略奪が全体的に横行し、農場責任者は、地区の指導者とともに、残っている百頭の牛をトルコに持っていき、1kgあたり2米ドルで売ったのです」と報告している(Armenia 1995)。

貧しい人々は多くの場合、政治家に対してほとんど影響力を持たない、と報告している。インドの多くの地域の貧しい人々は、一見もっともな公約をしながら、酒を賄賂として配る政治家を冷めた目で見ている。そのような政治家がいるために、既に指定カースト(カースト体系からはみ出したヒンズー教徒)や部族民の間で蔓延しているアルコール依存症が、さらに増加している(India 1997a)。パキスタンでは、地方の政治家が資金を着服していると言われていた(Pakistan 1996)。また、多くの国で、地方の政治家が、地方犯罪組織や富裕層と癒着していると見られている。

どの国においても、腐敗した、思いやりのない、非効率な公務員と接触した経験が、貧しい人々に無力さと絶望感を与えている。メキシコのPPAには、必要な書類を用意できなかったために、社会サービス、雇用或いは融資を断られ、貧しい人々が不満を持った事例が報告されている(Mexico 1995; 第3章と第6章を参照)。

貧しい人々は、公務員との関係だけでなく、市場、地主、銀行や他の金融業者、又は雇い主との関係においても無力と沈黙を経験している。例えば、タンザニアの富裕層は「価格決定者」と呼ばれ、貧困層は「決められた価格を受け入れざるをえない者」とされている(Tanzania 1999)。エクアドルの報告書(Ecuador 1996a)によると、借金を負った貧しい農民には、妥当な市場価格になるまで作物を蓄えておく余裕がない。それどころか、農民は価格が低くても、直ちに収穫物を売らざるをえない状況にある。そして、時には、後でより高い価格で自分達の売った物を買戻すことさえあるのである。トーゴ(Togo 1996)の貧しい人々は「卸売り商人から搾取されることなく原料を買うことができること」を望んでいる。ザンビア(Zambia 1997)の貧しい農民は、商人や輸送手段を持つ者に依存すること、肥料等を高値で買わなければいけないこと、そして、支払いの遅れや詐欺的行為に対抗する力を持たないことを悲嘆している。インド、ウガンダ、グアテマラ、モルドバ、タイ、ベトナム、ガーナにおいて、貧しい人々は搾取から身を守る手立てがないと嘆いている。「貧しい人々には売買に関する交渉力がない。独占者にとって、生産資源を支配することが重要であり、従属者にとっては、生存することが重要なのである」とインドの報告書は述べている(India 1998b)。

また、警察官が犯罪を黙認していたり、ギャングや市場を支配する犯罪集団と手を組んでいたりするため、路上で商売をすることは無力感をひしひしと体験する場となる。ウクライナ(Ukraine 1996)の露天商は、「街角に立っていると、奴らが

近づいてきて、『ここをどけ。おまえがいる場所はないんだ』と脅されます。その場をあとにして別の街角に立ち、素早く物を売らなければなりません。時には、彼らは私の売値が気に入らないことがあります。「値段をこれ以上下げたら、顔をめちゃくちゃにしてやる」と脅してきます。私は素早く売って、その場所から離れることができる時もあります。しかし、こういう奴らを見かけると、相手にしないほうが懸命だと思い、すぐにその場を離れることもあります。つまり、路上での売買は不快で、危険なものなのです」と述べている(Ukraine 1996)。

このような国々や同じような状況にある他の国において、最も大きな搾取の被害にあっているのは賃金労働者である、と貧しい人々は語っている。賃金労働者は劣悪な労働環境の中で長時間働き、標準以下の賃金を受け入れざるをえない。他に手立てがなく、また資産もないため、貧しい人々は地主、質屋、金貸しといった、彼らを搾取する人々に助けを請わざるを得ないのである。

公共の場や家庭内で増加する犯罪に対して、貧しい女性達は恐怖心を抱いている。例えば、ウクライナの女性や老人は、最近では日没後に外出することはなく、「学校や職場からの子供達の帰宅が遅くなると心配になります」と述べている(Ukraine 1996)。モルドバでは、暴行に対する恐怖から、女性は夜勤を嫌っている(Moldova 1997)。南アフリカで行われた事例研究には、「10代の少女のレイプ事件、夫による暴力への懸念から子供の保育料要求をできずにいる母親の訴え、そして、酔った上での諍いから妻を不具にした例」が記録されている(South Africa 1998)。

南アフリカのPPAには、ギャングに関連した暴力や政治的暴力についても書かれている。薪の収集のために外出する際、身体的な攻撃や強姦の危険にさらされているという女性からの報告がある。そのため、女性は電気が村に来ることを特に望んでいる。インドやパキスタンの女性は、薪を収集している際に、森林管理者などから強姦やセクシャルハラスメントを受ける危険性を訴えている(India 1993)。パキスタンでは、トイレがないため、早朝や深夜でも茂みで用を足さねばならず、その結果、女性は蛇にかまれたり、セクシャルハラスメントや強姦を受けたりする危険にさらされている(Pakistan 1993)。バングラデシュ(Bangladesh 1996)では、不便さとセクシャルハラスメントの恐怖のため、思春期の少女や大人の女性は、トイレや入浴施設の設置を強く求めている。

債務の悪循環に陥ることにより、貧しい人々の無力さと絶望感はますます強くなる。パキスタンやインドにおける借金の問題は、都市部と農村部の両方の地域社会に共通している。そして、多くの場合、借金の返済を考えると無力感に襲われ、自立性を失う。インドのPPAによると、負債者が、1年間にわたり、金貸しの家で使用人として働き、農場で労働者となり、更に他の仕事をして、借金を返済

せざるを得なかったという借金の悪循環の例を話している。その上、利子が高いこと、病気で働けなくなること、食費や住居費の支払いなどから借金は雪だるま式に膨らんでいく(India 1997a)。借金の増加の問題は、スワジランドの報告でも細かく記されており、特に、食料、交通、教育、保健・医療の価格の上昇がきっかけになっている(Swaziland 1997)。

開発途上国における貧しい人々の声は、移行期にある東欧や旧ソ連において経験されているような、突発的に貧困に陥った人々のものとは異なる。貧しい人々の声は、総じて生活の不安や物資の不足を訴えている。しかし、人々が貧困と闘うことを諦めていないとしても、貧困が長期的に継続している場合には、人々は運命として受け入れているようだ。一方、東欧や旧ソ連の貧しい人々は、不信心と落胆に満ちており、より良い暮らしを送っていた昔と苦しい現在とを比較する傾向が強い(Box 2.2参照)。

## 文化規範と社会規範

もしこのような、素朴で人間味あふれた連帯感を実感できなければ、私達の生活は耐え難いものとなっているでしょう。

—ウクライナの貧しい女性, Ukraine 1996

我々は、自分達の言語としきたりに誇りを持っています。

—パナマの先住民グループ, Panama 1998

パナマのPPAによれば、文化的アイデンティティは、「共通の歴史や文化、過去に関する共通の誇り、そして時には感情を共有すること」を通して形成されていく(Panama 1998)。これらの社会的連帯は、地域社会を安定させ、貧困による精神的ストレスを和らげる。例えば、メキシコのPPAによると、オアハカの先住民は物質的には最低水準にあるが、「必要なときに支えてくれる伝統的な共同社会のしきたり」があるために、他の貧しい人々に比べて幸せであり、不安もそれほど感じていないという逆説的な状況にある(Mexico 1995)。

文化的アイデンティティは儀式、祝賀、祭礼を通して保たれており、貧しい人々はこのような催事への参加について頻繁に言及しているが、これには重大な意義がある。社会的連帯は、多くの貧しい人々の重要な資産の1つである。社会的連帯とそれによってもたらされる感情的・精神的安心感を維持するために、人々は進んで相当な犠牲を払い、社会的連帯を確保するために、様々な財産を捧げることもいとわないのである。また、トーゴのPPAは、強制移動や仕事に伴う移動は、「象徴

## Box 2.2 貧しい人々の声：世代を超えた貧困と突発的な貧困との比較

### 世代を超えた貧困

今、飢えているなら、これからもずっと飢え続けるのでしょう。貧しいなら、これからもずっと貧しいでしょう。

—ベトナムで実施されたPPAの報告書より, Vietnam 1999a

貧困は受け継がれていくものです。貧しい父親の下に生まれると、教育を受けることもできず、質の悪いごく小さな土地さえも与えてはもらえません。世代を超えていくごとに、ますます貧しくなっていくのです。

—ウガンダで実施されたPPAの報告書より, Uganda 1998

私達は物質的には貧しいですが、神の目から見ると豊かです。

—ケニアで実施されたPPAの報告書より, Kenya 1996

貧困とは誕生の瞬間から始まるものだと思います。生まれた日から不幸な人々がいて、世界中のどこにも抜け道はないのです。

—ブラジルで実施されたPPAの報告書より, Brazil 1995

何によって貧しさと豊かさは決まるのでしょうか。先住民は貧困となる運命なのです。

—エクアドルで実施されたPPAの報告書より, Ecuador 1996a

### 突発的な貧困

2、3年前までは、何を料理しようかと考えたことなどありませんでした。今ではコンロにかけるものが何もない時があります。そして、これは母親にとってとてもつらいことです(と泣く)。以前は病気になることなど恐れていませんでした。全てはきちんとされており、健康保険もありました。今日、私達は誰も病気にかからないように神に祈っています。私達に他に何ができるのでしょうか。

—マケドニアの女性, Macedonia 1998

私達の人生は終わりました。ただ、子供達を見ると胸が痛みます。娘は子供を養うために、時々「ジト ルークス (Zito Luks)」というパン屋から家畜用の古いパンをもらってきます。私はそんなことをしたことがありませんでした。若い頃は今より貧しかったのですが、食べ物に困るようなことはありませんでした。

—マケドニアの72歳の女性, Macedonia 1998

この危機的状況の終わりが見えないため、人々は絶望しています。

—ウクライナで実施されたPPAの報告書より, Ukraine 1996

2匹の豚と20羽くらいの鶏を飼っていたこともあります。今は何もありません。お金が少なくて毎日パンを買うのも難しいのです。数年前までは、冷蔵庫はソーセージで一杯でした。今は空です。おそらく神は、私達が昔、無駄をしていたことを罰しているのでしょう。

—モルドバの女性, Moldova 1997

的な記念碑、神聖な木々や森、そして、人々の文化的アイデンティティの根底に流れる活力を失うことになり、結果として、深い疎外感を感じるようになる」と報告している (Togo 1996)。したがって、(食料や住居といった)生活必需品が満たされると、伝統儀式関係の支出が家庭の支出の多くを占めるようになる。「乏しい資源を、例えば保健・医療や教育ではなく社会的催事に費やすことは、無責任な行いに見えるかもしれない。しかし、貧しい人々から見ると、長期的な借金の原因にならない限り、この支出が極めて合理的な選択となる。実際、(時には派手すぎるくらいの)惜しみない支出は、名声を手に入れ、地域社会とのつながりを強固にする手段となり、必要に迫られた時に援助を求めやすくする。したがって、儀式への支出は、社会関係資本を築き、脆弱性を軽減するための投資なのである」(Togo 1996)。

社会的連帯を維持することは、貧しい人々にとって、非常に価値がある。贈り物に返礼できなかつたり、地域社会の催事に参加できなくなることは、好ましくない結果をもたらす。それは、屈辱感や名誉の損失、精神的苦しみや、社会からの疎外や重要な社会ネットワークからの排除といったものである。実際に、社会規

範を遵守しないということが、貧しい人々による貧困の定義そのものであることがよくある。例えば、マダガスカル農村部では、貧しいということはつまり、「その土地の風習や規範を守ること」ができないことを意味し、他方、裕福な人々とは、「土地の規範に従う余裕がある」人々のことを指す (Madagascar 1996)。

また、服装は、特に若者や子供にとって、強力な社会的指標となる。バングラデシュ、インド、モルドバ等の様々な報告書によると、子供達は、みすぼらしい衣服を身に付けているため、教師や裕福な家庭の子供達から引け目を感じている (Bangladesh 1996; India 1997a; Moldova 1997)。モルドバの青年にとって、「立派な服を持っていないこと、より裕福な友達の前で屈辱を感じることを、標準的な社会生活を営めないこと」は、貧困の主要な指標の1つとなっている (Moldova 1997)。アルメニアの人々は、基本的な衛生管理ができないため、自尊心も地位もなくなると述べている (Armenia 1995)。グルジアでは、つぎはぎのある古い服を学校に着ていく子供達はひどく罵られている。その結果、両親は子供を学校に通わせなかったり、状況が改善されるかもしれないというわずかなの望みから入学を1年遅らせたりする。トビリシには、他人の前に汚く貧しい身なりで現れるという日々の生活に屈辱を感じ、そのために大学の授業を欠席している若者もいる (Georgia 1997)。

## 国家によるインフラストラクチャーの整備

道路があるところから開発が進んでいく。

—カメルーンで実施されたPPAの報告書より, Cameroon 1995

私達は地球が豊かだと思っています。しかし、もし生産物を市場に運ぶ道路がなかったら、家族が生存に必要な量以上のものを生産する意義がどこにあるのでしょうか。

—グアテマラで実施されたPPAの報告書より, Guatemala 1997a

例えば、今朝亡くなった幼い少年は、はしかで死にました。病院に行っていれば、彼の病気が治ったことは明らかなです。しかし、両親はお金がなく、彼は長くつらい痛みを味わいながら亡くなりました。それははしかではなく、貧困による死だったのです。

—ガーナの男性, Ghana 1995a

水は生活そのものです。そして私達は水がないがゆえに、生活がみじめなのです。

—ケニアで実施されたPPAの報告書より, Kenya 1997

貧困とは、国家が支給する品々や一部の研究者が社会的賃金と呼んでいるものへのアクセスがあり、それを消費できるかどうかに関連している (Baulch 1996b; Moore and Putzel 1999)。PPAのなかで、貧しい人々は道路や交通手段、水道、電気、保健・医療、市場などの基本的なサービスの重要性について述べている。

都市部の貧困層は、実際には農村部に住む貧困層より貧しいにも関わらず、インフラストラクチャーと基本的サービスへのアクセスがあるため、農村部の貧困層よりも比較的恵まれた生活をしていると考えられる場合もある (Guatemala 1997b; India 1997a)。同様に、インドの報告によると、「社会的、教育的な観点から、繁栄した村に住む貧しい家族は、貧しい状況にある村に住む貧困者よりも、比較的恵まれている。なぜなら、社会的、教育的設備は繁栄している村に住んでいる方が利用しやすいからである」(India 1997a)。

地域社会の貧困は、インフラストラクチャーや公共サービスの供給と関係している。ナイジェリアで調査された貧しい農村では、そこに住む貧しい人々は、水道、電気、道路、学校教師やその他のインフラストラクチャーが不足しているために、すべての住民が貧しいと述べている (Nigeria 1995)。ウガンダでは、貧困は個人的なものと同様に地域社会に関連するものに分けられており、地域社会レベルの貧困とは「学校や道路など、地域社会全体に必要なインフラストラクチャーが欠如していること」であり、安全や調和が欠如していることである (Uganda 1998)。同様に、どのようにしたら貧困が削減されるかという問いに対する、エクアドルの貧困家庭の提言のほぼ半数は、基礎的なインフラストラクチャーの供給であった (Ecuador 1996a)。

農道や橋といったインフラストラクチャーの不足・不備が広範囲に渡っている。最も貧しい地域社会は主要なインフラストラクチャーから遠くに位置し、隔離されている点で、インド、イエメン、バングラデシュ等多くの国々で報告されている (India 1997a; Republic of Yemen 1998; Bangladesh 1996; Mexico 1995; Guatemala 1997b; Uganda 1998; Ecuador 1996a; Cameroon 1995)。インドの最も貧しい村の多くは、一番近いインフラストラクチャーからでも15~20km離れたところに位置している。雨期になると、村の人々はより開発の進んでいる地域から完全に切り離されてしまうと感じている。「その結果、隔離された村の人々は、事実上、初等教育以外の教育、医療、政府・NGOによるサービスから完全に切り残されている」(India 1997a)。バングラデシュ (Bangladesh 1996) とガーナ (Ghana 1995b) の貧しい人々もまた、特に雨期の間、道路がないことを重要な問題として取り上げている。

道路がないために、地域社会は他のインフラストラクチャーからも隔離されるだけでなく、政治へのアクセスも閉ざされる。ウガンダ政府の職員は、隔離された地域への配属を一種の懲罰と考えている (Uganda 1998)。同様に、ケニアのPPA

は、地方政府の幹部は、劣悪で危険な道しかない村への訪問を避ける傾向があると指摘している。もし万が一、彼らが遠く離れた村に行くとしても、それは短期の訪問にすぎず、自ら問題をよく観察し、関係者と話し合いをする時間はないのである (Kenya 1996)。

道路は物理的な結びつきを増やすだけでなく、貧しい人々の選択の幅や交渉力を高める意志の伝達手段としての役割も果たす。粗末な道は村落間や都市－地方間の商業活動を極端に制限する (India 1997a; Ecuador 1996a)。例えばカメルーンの南西州で実施されたPPAのインタビューに答えた86%の貧しい人々が、交通インフラの不備は、農業生産力や市場活動を拡大できない主な原因だと考えている (Cameroon 1995)。ウガンダの貧しい人々は、交通手段をあまり持たないことから、価格に関する交渉能力が低いと報告されている。「農家の生産品が低価格でしか売れないのは、道路の不備のためである」(Uganda 1998)。

また、交通機関の未整備は、医療や教育といったサービスへのアクセスの問題と関連している。メキシコシティでのインタビューに答えた人の3分の2は、医療診療所の質の低さと交通手段の不足に不満を持っている。この比率は農村部ではさらに高い。サカテカスの農村部では、最も近い診療所までの交通費は平均41米ドルであり、これは麻織りというこの地で唯一の賃金労働の1ヶ月分の収入に相当する。「サカテカスでは家族の病気のために全ての家畜を失ったり、2000～5000ペソ(365～900米ドル)の債務を負ったという話は珍しくない」(Mexico 1995)。イエメンにも、「遠い地域に住む貧しい家族は、緊急時にのみ医療施設を利用する」という同様の問題が存在している (Republic of Yemen 1998)。

交通手段の欠如は子供にも影響を及ぼす。カメルーンの農村部に住む子供達は学校に行かないことが多い。学校が遠いため徒歩では通えないことが一因である。又は教師達が遠隔地での勤務を避けてしまうのも一因である (Cameroon 1995)。タイでは、教育費と通学費を支払う余裕がないため、両親が学校を辞めさせてしまうことがある (Thailand 1998)。南アフリカのある村では、子供を学校に通わせるための交通費が、貧困の原因の1つだとされている (South Africa 1998)。

交通手段の他にも、水の確保と公衆衛生という2つの問題が、貧困とそうでない人を隔てている。水へのアクセスは農業生産にはもちろん、入浴や飲料に欠かせない。バングラデシュでは、安全な飲料水の不足が、貧しい人々の最も重要な問題の1つとされている (Bangladesh 1996)。同様に、キルギスのある地方では、世帯のわずか45%しかまともな飲料水を確保することができず、半数以上の最貧困層家庭が、湖や池、雨水に頼っている状態である (Kyrgyz Republic 1998)。ベトナムの子供達は、飲料水のない人々を貧困者と考えている。インドのある地域に住む貧しい人々はこう述べている。「ここでは、1番の問題は飲料水です。飲料

水はふたのない井戸から汲み取られます。井戸の中には葉やごみが落ち、腐ってゆくのですね。ポリオやマラリアなどの飲料水から伝染する病気が蔓延しています。医療スタッフは誰もこの村を訪れようとしません。ここには数本の手動ポンプがありますが、水滴も出ないのです」(India 1997c)。

インドには、貧困は農業生産力全体に直接関係しており、灌漑用水が重要な役割を果たしている(India 1997b)。灌漑設備の欠如はその地域の全農民に影響を及ぼすが、限られた農地しか所有していない農民は最もその影響を受けやすい。調査を実施したある村では、灌漑設備の欠如が貧困の根底にあるということが明らかになった(India 1997b)。比較的豊かな地域社会には水へのアクセスがあり、乾期の間にも耕作が可能であるとされている。乾期に作物を売る世帯は、垂鉛の屋根を取り付けるといった家の修繕にその収入を当てることができる(Ghana 1995a)。さらにガーナでは、乾期に灌漑資源として使うことのできる村の水資源こそ、地域社会の重要な財産とされている。これらの地域は、確実な水資源を持たない地域に比べると豊かである(Ghana 1995a)。

比較的豊かな地域では、電気や電話の不足や高い料金が、インフラ整備の問題として頻繁に取り上げられる。グルジア(Georgia 1997)では、停電は貧しい地域で最も頻繁に起こると報告されている。1996年には、首都トビリシの近隣地区では比較的停電が少なかったのに対し、トビリシから離れた貧困地区では1日から最高で1ヶ月という停電があった。多くの地域の電話サービスは、緊急電話でさえほとんど通じなくなっている。また、電話が使用できない時でも電話料金を払わなければならないことに、人々は不満を隠しきれない。支払いを拒否すると、役人は「電気は時々夜に通るから、その時に電話は使えるではないか」と言うのである(Georgia 1997)。

## 貧しい人々の財産

私達には土地も仕事もありません。…土地を持っている人もいますが、遠すぎるので収穫した物をそこから運ぶことができないのです。私の土地は離れた場所にあり、収穫物を運ぶことができないので、貧しいのです。

—エクアドルで実施されたPPAの報告書より, Ecuador 1996a

もし家族の誰かが重病にかかったなら、その人は死ぬでしょう。食べ物を買うお金もままならないのに薬を買うお金などありません。

—ベトナムで実施されたPPAの報告書より, Vietnam 1999a

私は以前、自分が読み書きができないことに不安を感じたことがなく、実際食べていくのが精一杯で、子供を学校に行かせてやることもできませんでした。しかし今…私は子供が一生苦勞することに気がついたのです。読み書きができないために、子供達はきちんとした仕事につけないのです。

—スワジランドで実施されたPPAの報告書より, Swaziland 1997

生活と未来を保証できる力と影響力を持った人々と接し、彼らとのネットワークを構築していく必要がある。

—パキスタンで実施されたPPAの報告書より, Pakistan 1993

貧しい人々は収入についてほとんど触れることがないが、彼らにとって重要な財産は何かについては多くを語る。彼らは物質的・人的・社会的資本や環境資源といった財産を持っている。これらの財産には、物質的及び社会的に現存するものもあれば、将来的な資産もあり、危機や貧困の際に個人や家庭、地域社会が利用するものである(Togo 1996; Benin 1994; Moser 1998a)。個人や集団の力の違いは財産管理や使い方に現れてくる。家族や地域社会、他の社会制度の中で、力の配分がどのようになされるかは、様々な資源の利用に直接関係している。財産へのアクセスにおけるジェンダーの相違は、広範囲に見られ、脆弱性に影響し、政策策定においても重要な点である。なお、これらは第4章と第5章において詳しく触れられている。

資産を主に4区分すると以下の通りである。

- ▶ 物質的資産：土地や有形財産など
- ▶ 人的資本：医療・保健、教育、訓練、労働力など
- ▶ 社会関係資本：血縁関係、近隣や組織のような社会ネットワーク
- ▶ 環境資源：草木、水、非木材製品など

これに加えて、資産は個人、家族、地域社会の各レベルでそれぞれ機能している。貧しい人々の持つ4つの財産のうち、社会関係資本がおそらく1番理解されていないものだろう。社会関係資本に関する最近の文献は、家庭、集団、地域社会で果たす社会関係資本の役割について、綿密な調査を行っており、政策決定者にとり重要な指針となっている(Grootaert 1998; Woolcock and Narayan 2000)。

資産はまた、家畜のように生産的なものであったり、純粋な(例えば宝石のような)投資対象でもある。また、資産の中にはその両方の機能を有するものもある。例えば、家は、貸したり(生産的)、売ったり(投資)することができる。資産を活用

し、又は投資の対象とする場合において、これら全ての要素が考慮に入れられる。個人や家庭が自らの貧困を軽減するための手段として資産をいかに利用するかは、その性質、社会的背景、貧困の度合によって様々である。

## 物質的資産

貧困と土地は大きく関係しています。土地を持たない人は日雇い労働に出て行かなければなりません。

—エクアドルで実施されたPPAの報告書より, Ecuador 1996a

土地や家、財産、家畜を持っていない人は貧しいと見なされています。

—ウガンダで実施されたPPAの報告書より, Uganda 1998

家畜は1年を通じた家族の蓄えです。もし家畜が病気で死ぬようなことがあれば、収穫のない時期に私達を養えるものは何もありません。

—ベトナムで実施されたPPAの報告書より, Vietnam 1999a

人は羊を絶やしてはなりませんし、穀物なしでは生きていくこともできません。

—中国で実施されたPPAの報告書より, China 1997

土地の所有もしくは土地へのアクセスは、一般的に重要な財産と言われている (Uganda 1998; South Africa 1998; Kyrgyz Republic 1998; Benin 1994; Ecuador 1996a)。特に農村部では、土地へのアクセスと所有が貧困に関する議論の中核となっている。エクアドルの貧しい人々は、相互関係にある4つの要因によって貧困が生じると考えている。第1に、食料を生産するための土地が限られていること。第2に、傾斜があり、浸食がひどく進んだ質の悪い土地であること。第3に、灌漑設備がないこと。第4に、大きな家畜を育てて売る能力に限界があること、である (Ecuador 1996a)。ギニアビサウの貧しい男性はこう述べている。「今私達が耕しているような土地を見つけるのは簡単なことではないのです。…私達が耕した土地に建物が建設されるらしいのです。これが大きな悩みの原因です。もしこのようなプロジェクトが実行されるなら、私達は収入がなくなるのですから」 (Guinea-Bissau 1994)。フィリピンの先住民は、先祖代々受け継いできた土地の自由を徐々に失っていると感じている。ある地域では、非先住民の人々が、恥知らずな政府高官と共謀して、先住民の土地の権利を手に入れていることが報告されている (Philippines 1999)。また、ザンビアの貧しい人々は、多くの農村部と同様

に、土地の生産力の低下を心配している(Zambia 1997)。

多くの研究によると、貧しい人々は、食料調達能力は、物質不足と不安定な家計に対する有力な対応の1つであると考えている。ナイジェリアでは、農村部の多くの人々は、家の周囲で野菜をつくり、不足している食料を補っている。一方、都市部に住む多くの人々は、自給自足ができていくという点で、農村部に住む人々と比べて不利だと考えている(Nigeria 1995)。このことはウクライナの都市部に住む人々にも当てはまる。ウクライナでは、貧困かどうかを分類する最も重要な2つの基準に、住宅と肥沃な土地の保有が挙げられる(Ukraine 1996)。同様に、エチオピアでも、最も貧しい家族というのは自給自足も満足にできない人々のことを指す(Ethiopia 1998)。

一般的に資産とみなされている住宅は、選択肢を制限し、財産を枯渇してしまうために時としてマイナスの財産となりうる。社会主義崩壊後の移行期のラトビアでは、所有者の多大な出費のもとで住宅を再登録し直さなくてはならなかった(Latvia 1998)。維持費もまた、財産の流出につながる。ギニアビサウの貧しい人々は次のように説明している。「ほとんどの子供達が生まれる前に(家を)建てました。しかし、わらぶきの家なので、毎年屋根を取り替えなくてはならないのです。これには相当なお金が必要です。今、この屋根をふき替えるのにおよそ120万ペソかかります。私達は亜鉛でできた屋根の家が欲しいのです。そうすれば、定期的な屋根のふき替えをせずに済むからです」(Guinea-Bissau 1994)。

一方で、貧困の度合いの判断は、平均的な住宅に住んでいるかどうかでなされる。グルジア(Georgia 1997)では、損傷が悪化し危険な住宅は、貧しい人々にとって重大な悩みである。最も頻繁に挙げられる問題は、雨漏りや、ひび割れが多くカビ臭い壁、割れた窓、朽ちた床、壊れたトイレ、そして錆びついたパイプである。アパートを所有する夫婦がこう述べている。「夜中にしっくいのかげらが頭に落ち、雨が降ると壁から水が漏れ、その雨が朽ちた床の穴に浸透していきます。蛇口からは1日中水が漏れています。これは普通の生活とは言えないでしょう」(Georgia 1997)。バングラデシュ(Bangladesh 1996)のチャー族は、雨風をしのぐ住居がないことを主な問題としている。わらの小屋は、定期的に訪れる嵐の強い風によって簡単に吹き壊されてしまう。もちろん、住居は重要な収入源になる可能性も秘めている。貧しい家族の中には部屋の賃貸による収入で生活している者もいる(Swaziland 1997)。

個人や家庭の資産は、緊急の場合に売り払える場合には財産となり、売れる資産は、貧しい家族が持つ数少ないセーフティネットの1つになる(Uganda 1998; India 1998a; Georgia 1997; Zambia 1997; 1995; Latvia 1998; Ethiopia 1998)。ウクライナでは、貯金がいづらかあると答えた貧しい人々は1人もおらず、彼らのほとんどが、車や宝石類、電化製品などの高価な資産を手放すしかなかった(Ukraine

1996)。しかしながら、資産は取り戻せるものではなく、私有物や資産を売却することは多くの場合、危機を乗り越えるための最終手段としてである。実際にスワジランドでは、家族が既に財産を売ってしまっているため、財産を売却して当面のお金を工面することは不可能になっている(Swaziland 1997)。インドでは、「今では、多くの家庭が、金の装飾品や青銅の日用品など価値のある資産はすべて借金返済のために使い果たしているとされている」(India 1998a)。

いくつかの報告書には、私有物を売却しなくてはならない時、女性の物が最初に売られると報告されている(Pakistan 1993; Georgia 1997; India 1998a)。パキスタンの報告書が指摘するように、この状況は、「家庭内における女性の意思決定力の欠如や弱さが影響している」(Pakistan 1993)。同時に、持っけていても利益を生み出さないものから最初に売却されるため、宝石のような資産を売ることは、合理的な決定であるように思われている(Pakistan 1993)。同じような状況がグルジアでも見られる。グルジアの家族は、宝石類などの私有物から始まり、家具、そして家といったように、段階に分けて資産を手放していると報告されている。また、「売るものすべてを失った人にとって、自分の血液が最後の収入源となるのである」(Georgia 1997)。同じ習慣はラトビアにおいても見られる(Latvia 1998)。

飢えや病気、その他の苦境にあっても、貧しい人々はいくらかの財産を保持し続けようとする場合もある。貧困は、威厳や威信の損失に深く関わっていて、威厳や威信の大部分が、社会的地位を表わす、所有権によって決まるのである。マリでは、宝石や自転車のような、高価で売ることができる資産を所有している家族は珍しくなく、貧しい人々は、それらを売るくらいなら、収穫前に飢える覚悟を持っている。報告書は、以下のように記している。

これらの選択は不合理や利己的であると切り捨てられていいものではない。本当の危機の直面した時、地域社会での社会的地位を保つために、投資を分散する必要があるからである。この文化的な背景を考慮に入れると、何が貧困となるのかを決めるのはとても難しくなる。プレスレットを売れば十分な食料を得ることができるのに、1年のうち2ヶ月間、カロリー摂取量が不十分な家族は貧しいというのだろうか。息子の結婚式に必要な牛を買うためにお金を貯めていて、病気の子供に薬を買わない父親はどうだろうか。このような行いに対する十分な説明がある一方で、家庭の消費調査のような伝統的な貧困調査法はそれらを捉えることができない。

—マリで実施されたPPAの報告書より, Mali 1993

## 人的資本

もし今日お金がなければ、あなたは病気で死んでしまうでしょう。

—ガーナの年老いた女性, Ghana 1995a

病人には生きる権利がない。

—グルジアのジャバケティの住民の新たなことわざ, Georgia 1997

私は読み書きができません。それは目が見えないのと同じことです。

—パキスタンの読み書きのできない母親, Pakistan 1996

もし学校に行っていたなら、自分の仕事を持ち、会社勤めをしている男性と結婚できていたでしょう。

—ウガンダで実施されたPPAの報告書より, Uganda 1998

私は年老いても働くことができません。だから私は貧しいのです。

私の土地も古くやせ果てているため、たとえなんとか畑を耕しても、私と子供に十分な収穫は見込めません。

—トーゴで実施されたPPAの報告書より, Togo 1996

人的資本は健康、教育、そして労働からなる。物質的・生産的資産がない人にとって、労働力や健康的な身体は確実に生き残るための重要な要素である。つまり、それは最も重要な人的資本となるのである(Latvia 1998; Senegal 1995)。ベニンの報告書で説明されているように、生産力のある大人を失うことは「それが病気、死、離婚、怠慢のいずれであるにせよ、外的ショックを克服するための家族の能力を劇的に低下させるもので、貧困の主な原因の1つである」(Benin 1994)。

貧しい人々は何よりも家族の中で病人が出ることを恐れている、とPPAは明らかにしている。病気によって、人々は働けなくなり、家族は貧困に陥ってしまう。公的機関によるセーフティネットの提供が不十分な場合、家族の誰かが病気になる、家族全体の経済的安定が損なわれることがある。トーゴの村で貧しい人を描くように言われた子供達は、病人や障害者を描くことが多い(Togo 1996)。ガーナでは、良好な健康状態は特に重要な資産と見られており、それは貧しい家族が肉体的労働によって生計を立てており、他の資産を持っていないからである。「現地調査によれば、病気—それは時に早過ぎる死をもたらすが—は、しばしば極度の貧困の原因となることが分かった。これは、なぜ地域社会が、最貧困者の特徴の1つとして、(障害を含む)不健康を挙げるのかを説明している」(Ghana 1995b)。

病気は家庭が有する資源に大打撃を与え、その後も資源を吸い取り続ける。

パキスタンでは、ラホールに住むある父親が、本人、妻、2人の子供の入院費用を返済するのに8年かかったと述べている。ある母親は、息子の医療費を工面するために、最近娘に学校を辞めさせたと語っている。別のある男性は、子供の治療費を払うために両親が土地を売ったと話す。要するに、ラホールの貧しい人々の多くが家族の健康の危機に対処できたとしても、結果として、彼らが有する資産や人的資本への投資は損害を被ることが多いのである(Pakistan 1993)。

読み書きの能力、又は「学問への意欲」は、あらゆる所で評価されている。トーゴでは、読み書きができないと、雇用が確保できず、授業についていくことも、政府のサービスや融資を受けることとできない、と人々は述べている(Togo 1996)。インドでは、読み書きができないことが貧困をもたらす最大の理由と考えられてはいないが、貧しい人々は読み書きの能力があれば生活がよくなると考えている。「読み書きができないことで、依存を深め、消極的になり、教養のある者にだまされやすくなる、と彼らは理解している」(India 1997c)。

読み書きの能力は明らかに重要とみなされているが、教育については賛否両論ある。家族が教育に投資することはしばしば困難である。スワジランドの両親は、家庭の出費を減らすために食費を切り詰めるなど相当な犠牲を払って、子供を学校に通わせている(Swaziland 1997)。ギニアビサウのある男性は子供の学校教育についてこう話す。「私が思うに、神が思し召すままに、彼らはきちんと勉強していい仕事に就くと思います。私は全力を尽くして子供達が学校を休まないようにしています。神様が子供達を成功に導いてくれると願っています。もしその願いが叶わないのなら、耐えるのみです。教育を受けなければいい仕事につけず、生活は苦しくなるのです」(Guinea-Bissau 1994)。ベトナム(Vietnam 1999a)では、教育への投資は貧困から抜け出す最も重要な手段だと考えられている。そして、教育費の不足と安定した職を得られるかどうかは、最も重要な問題だと認識されている。ケニア(Kenya 1996)の全ての地域において、貧困に苦しんでいる両親は、子供を学校に通わせ続けることを非常に重んじる。そうするために、「貧困に苦しんでいる両親は、物を売り、物乞いをし、盗みを働き、醸造してビールを売り、祈り、教会に通い、行商を行い、自助団体に参加し、先生をおだてて子供を学校で預かってもらい、支払いを月賦にし、子供を仕事に出し、そして時に極貧にも耐え、子供が学校を辞めなくてもすむようにするのである」(Kenya 1996)。

しかしながらその他の地域では、とりわけ教育が仕事や富と直結していない場合、教育の有益性は疑問視されている。東欧や旧ソ連において、経済活動への参加の機会は縮小し、それはコネによってのみ与えられるので、教育の有する価値を疑問視する声が高まっている。マケドニアの学生達は、「コネがないならば、学校はなんの役にも立たない」と言う。両親もそれを認めてはいるが、いずれに

しても子供達を学校へ行かせるよう励ましている。教育が仕事や富へと導いてくれるものではなくなったことに、彼らはすでに気がついている。「国も誰も仕事を与えてはくれない」(Macedonia 1998)。

マリ(Mali 1993)では、インタビューを実施した80%の人が学校教育は重要であると信じているにも関わらず、学校教育は多くの人にとって期待はずれのものになっている。学生達に良い仕事を見つける手助けをし、基礎教育を施し、そして道徳や社会的な品行を教える点で、学校は十分な機能を果たしていない、と多くの両親は報告している。例えば、ブルキナファソでは、学校教育の質はあまりに低いと考えられているため、「現実的に個人や家庭の生活水準を確実に向上させる点から見ると、教育費への投資や畑仕事における労働力の喪失は賢明な選択ではない」(Burkina Faso 1994)。

また、女子教育は多くの文化的問題を抱えている。一般的に、女子への教育は全く無意味なことだと考えられている。なぜなら女の子が家事の仕方を学ばなくなり、将来の妻としての魅力が失われ、「村での(彼女達の)未来の可能性を明らかに台無しにする」からである(Burkina Faso 1994)。それに加え、教養のある女子は、夫にも教養のある人を望み、自分達は仕事を見つけようとしないうと、考えられている。「したがって、若くて、教養のある女子は、結果的に居場所を失ってしまう。そして、彼女達は誰とも結婚しなくなるか、誰も彼女達との結婚を希望しなくなる。こうして、社会的に孤立していくことになる。最終的に、このような人々が、最も売春の道に入り込んでいこうとされている」(Burkina Faso 1994)。パキスタンにおいても、女子教育は結婚費用を高くすると考えられているため、評価されていない(Pakistan 1996)。

アルメニアのある親子によると、子供達は勉強をあきらめ、商人や小売商人になったという。その理由は、第1に、高等教育を受ける機会は、資金がない人には与えられていない、第2に、高等教育は必ずしも高収入を約束するものではない、第3に、家庭収入の必要性をすぐに満たさなくてはならない、という3点であった。農村部では、男子は8学年を最後に学校を辞める。シルカ地方のある生徒は「この学校を卒業した後、さらに勉強するには町の学校には行かなければならいので、僕は勉強する意欲を失いました。お父さんは町で勉強するだけの教育費用を用意することができないのです。僕が学校に行っているのは、他に僕にすることがないからなのです」と話している。またある父親は、「勉強をするにせよ、しないにせよ、おまえは牛の世話をするのだ」と言っている(Armenia 1996)。

## 社会関係資本

最も重要な財産とは…仕事や融資、そして財政的援助を得られる、  
いい地位にある大家族のネットワークである。

—セネガルで実施されたPPA報告書より, Senegal 1995

我々の村は以前より繁栄しました。以前、この村は2つの部族に分かれていましたが、現在、両部族は同じ集団に属し、我々は親密になりました。同じ知恵や資源を持つ人は誰1人としていないので、皆が一緒になると、多くの問題が解決するのです。

—タンザニアで実施されたPPA報告書より, Tanzania 1997

社会関係資本とは、広義の意味で、社会ネットワークに属する全員の利益と関係がある。社会的なつながりを通じて追加的な資源へのアクセスを得ることにより、貧しい人々は様々なニーズを満たすことが可能になる。貧しい人々は、自然災害や財政危機、急病や失業といったような危機に面した場合、自らを守る公的な保険がほとんどない。しかし、相互的な社会関係は、必要時に財政的、社会的、又は政治的支援を貧しい人々に与えることができるのである。友人や隣人、職業上のつながり、そして地域を越えて広がる絆は、生活を向上させる重要な財産であるが、貧しい人々が危機を乗り越えるための手段として最も頻繁に挙げるものは親類である。

様々なPPAの中で表現されている貧しい人々の経験によると、血縁関係のネットワークは、危機管理と同様に、日々の生活を生き延びる上でも重要であると強調されている。コスタリカでは、インタビューを実施した人々の約50%が、危機的状況において家族からいくらかの経済的援助を受け、同様の手段で返礼をした、もしくはしたいと答えている(Costa Rica 1997)。ガーナにおいて、親類は社会的セーフティネットと同じものだと考えられている(Ghana 1995b)。ニジェールでは、拡張家族のネットワークは飢えや食糧確保が不安定な時を乗り越えるのに役立つ(Niger 1996)。グアテマラでは、危機的状況において、家族は相互協力的な関係にある親戚や友人に助けを求める。これらの親戚や友人は、非常に少額ではあるが、薬代や医療費、そして医療機関への交通費を貸してくれたり、緊急時に少量ではあるが、食材を分け与えたりしてくれる(Guatemala 1997b)。東欧や旧ソ連において、血縁関係の一員であることや職業的なネットワークは、1990年代初頭の経済危機をいかにうまく切り抜けたかを示す重要な要素の1つと見なされている(Moldova 1997)。

貧しい人々が互いに助け合うと、彼らの資源がわずかなために、個人が得られ

る分が限られてしまう。そのため、社会関係資本は防御策をもたらしてはくれるが、それ自体が、人々を貧困から救うことはまれである。そして、社会関係資本は相互的なものである。社会ネットワークが、限られた資源へのアクセスといった利点をもたらす一方、その一員となることで、他人が自分の資源を要求することを覚悟しなくてはならない。マリの貧しい人々は、家庭内のニーズを満たすため、個人や家族レベルで財産を蓄えることは困難、又は不可能であると述べている。

これらの相互関連的なつながりは、子供をつくるかどうかにも影響する。家族の資源を失うことを防ぐために夫婦が子供を多くつくらないと決めた場合、相互扶助のルールに従い、その夫婦は親戚の子供の面倒を見る結果になってしまう。「親戚が強力なセーフティネットとなる一方で、生産的な投資や人口抑制など、長期的には貧困を軽減するような行動を妨げる面もある」(Mali 1993)。海外で技術者としての研修を受けたギニアビサウの中年男性は、教育における同様の負担について語っている。

ベッドルームが2部屋とリビングルームがある隣の家に、私は引っ越しする予定です。そのため、私のいとこ、甥、妻の兄弟2人が来月来る予定です。幹部職の研修を受けて国に帰ってくると、親類の誰もが自分達を救うために戻ってきたと思うのは想像できるでしょう。そして、あらゆる人を私の家によこし、親類の支援があったからこそ教育を受けられたのだから、今度は他の人にお返しをすべきだと議論し始めるのです。それに加えて、私は両親の日々の生活を支えています。さらに、私は儀式的な祭礼などのお金も用意しなくてはいけないのです。

—ギニアビザウで実施されたPPA報告書より, Guinea-Bissau 1994

他の財産と同様に、社会関係資本のレベルは常に流動的である。貧しい地域社会を越えた資源へのつながりが無い場合、貧しい人々のネットワークは単に生存のための保守的な機能、すなわち日々のニーズを満たすためのものにすぎなくなる。

## 環境資源の減少とその影響

貧しい者は自然の気まぐれと慈悲の中で生きている。

—ケニアで実施されたPPA報告書より, Kenya1997

この村の人達は皆農民である。2人の農民が同じ土地を耕作し、収穫期が過ぎた。1人は儲けて、多くのものを得たのに、もう1人は何の稼ぎもなかった。すると、人々は、後者を貧しいと言う。しかし次の年にはそれが逆になりうる。つまり、この村の誰もが貧しいのである。

—トーゴで実施されたPPA報告書より、Togo 1996

農村部の地域社会を脆弱にする最も決定的な要因は、食糧と水の供給が季節によって変動することである。ガーナのある地域では、不規則な降雨と極度にやせた土壌のため、「飢餓期」が5、6ヶ月続くことがある(Ghana 1995b)。同様に、ザンビアの研究報告書によると、農業労働に対する需要が最高潮に達する時期は、食糧不足やマラリアが最も深刻になる時で、「いずれの時も、労働の供給と労働者の体力が低下している時期と重なってしまうとエネルギーが減少する」(Milimo 1995)。マダガスカルでは、大人達が頻繁に出稼ぎするこれらの時期に、財産は失われ、借金を負う。そのため、家庭は、将来受けるであろう衝撃に対処すまま脆弱になってしまう(Madagascar 1996)。ナイジェリアの報告では、「農村部の貧困は、収穫期直前に最も深刻である。貧しい人々は、貯蔵していた食糧が底をつき、価格が最も高い時に高利貸しからお金を借りて、食糧を買わなくてはならない。そして収穫後、価格が低い時に、彼らは借金を返すために収穫物を売らなくてはならない。ゆえに、彼らや他の多くの極貧家庭にとって、農作物はわずかな価値しかなく、中には非常に低価格で事前に売られてしまう場合もある」(Nigeria 1995)。

季節は他の危険ももたらす。イエメン共和国では、女性や子供が(学校に行かずに)、水を汲むために長く時に険しい山道を行き来しなくてはならず、転倒や骨折は日常的な怪我である(Republic of Yemen 1998; Kenya 1996)。

雨期に、農村部と都市部の両方で、問題が生じる。穀物の値段は跳ね上がり、臨時雇用の機会は減少し、また、水浸しになった道端でのインフォーマルセクターの商売は限られてしまうのである(Ethiopia 1998; Ghana 1995a; Vietnam 1999b)。マケドニアの貧しい人々にとって、冬期は家を保全したり、温めることができないため、特に厳しい(Macedonia 1998)。

世界中の極めて貧しい人々の多くは難題に直面している。それは季節的な災害に加え、土地が痩せている乾燥地帯や熱帯地方のような環境上脆弱な地域に、彼らが住んでいるためである。他の土地に住むことができないため、急勾配の山腹や、海岸に近い標高の低い地域への貧しい人々の移住が増加している。脆弱な場所は増加し、浸食や土地の枯渇、山や海の資源の消耗、清潔な水の供給不足といった資源の質の低下と、貧困の悪循環に陥ってしまっている。例えばガー

ナのPPAによると、最も貧しい農村部の地域社会では、「高い人口密度のために、天然資源の基盤が極端に消耗している」(Ghana 1995a)。ベニンの報告書によると、土地を十分に持っていない家庭は、これ以上土地を休閑させることができず、土地はますます痩せ、生産量が落ちてしまうのである(Benin 1994)。雨に左右されるセネガルの貧しい農民はこう語る。「収入なんていつも完全に運の問題だ」(Senegal 1995)。

木材を集め、「草原や茂みに住む動物」を狩り、釣りをし、薬草や果物、木の実を収穫することで生計を立てる多くの伝統的な方法は、共通の資源に依存している。しかしながら、このような資源への負担が増えたため、資源が消滅しつつあるとの研究報告がいくつかある(Ghana 1995b)。例えば、インドの報告書によると、ゴムの木の急激な減少により、ゴムの樹液の収集にこれ以上の利益は見込めなくなっている(India 1998d)。女性は森林資源の採集に依存しており、木材以外の森林資源の消滅は、彼女らの生活に多大な影響を与える(India 1998a)。ベニンの多くの地域における森林の減少は、貧しい人々が、食糧難の時に、野生の食物を集めたり狩りをするのがこれ以上できなくなるということを意味している(Benin 1994)。

聞き取り調査を行った多くの貧しい人々の生活にとって、資源の減少は現実の問題となっている。「少しずつ自然環境が死んでいる。しかし人々は、自分達が環境を破壊しているという事実を理解していない」とグアテマラの農村部に住む、7人の子供をもつ貧しいラディノ族の母親は言う。彼女によると、主な原因は、植林の責任を担っているはずの森の所有者や当局、公的機関による大量な森林伐採である(Guatemala 1997b)。資源の減少は個々の家庭の財産や生産力をむしばむだけでなく、地域社会全体を貧しくする。タンザニアで小さな農場を持つ人はこう言っている。「10年前、私達は1エーカーにつき、10袋のキャッサバと8袋のトウモロコシを収穫していました。しかし現在は、土地が痩せ、雨も少なくなり、有機肥料や改良された種を使うわけでもありません。したがって、2、3袋のトウモロコシを何とか収穫する人もいますが、何も収穫できない人もいるのです」(Tanzania 1999)。

都市部の貧困層もまた、環境に伴う多くの危機に対して脆弱である。貧しい人が購入したり、賃貸できる家が少ないため、貧しい家族が居住できる場所は、土砂滑りや洪水の影響を非常に受けやすい急勾配の山腹や沼地である。ベニンのいくつかの地域では、貧しい人々は「年に2ヶ月、水がくるおしほどもで漬かるようなところ」に住んでいる。彼らは、下痢を伴う病気や呼吸器系感染症、通行不可能な道路、商いの機会の減少、そして住宅の絶え間ない修理に悩まされている(Benin 1994)。セネガルでは、都市部の貧困層が住む場所は「浮かんだ地域」と

### Box 2.3 1998年のバングラデシュでの洪水

バングラデシュは1998年に史上最悪の洪水の被害を被った。国土の3分の2が水浸しになり、その状態が7月から記録的な長期間、11週間も続いた。バングラデシュでは、季節的な洪水は当たり前のことで、ガンジス川、ブラマプトラ川、メグナ川の河川システムが毎年デルタの水を流し出しているのである。バングラデシュの人々と同国経済は、何世代にも渡って季節的な洪水に対応してきた。しかし、水位と通常以上の降水量が共にピークに達すると、生命や生活手段、財産、農作物が莫大な損害を被る。

1998年の洪水によって1000人以上の人が亡くなり、約3000万人の人々が影響を受けた。およそ1万5000mに渡る道路、1万4000の学校、何千もの橋や排水溝は深刻な被害を受けたのである。公共の設備に加えて、洪水は個人の財産(50万件の家を含む)、製品・部品に被害を与え、農業パターンを著しく狂わせ、農場での収穫量を減少させてしまった。

出典：Shah 1999

呼ばれ、都市の周辺にある不衛生な住居が密集し、無計画に形成された地域を指す(Senegal 1995)。南アフリカの貧困層が住む、都市部の掘っ建て小屋ばかりがひしめいている地域では、調理と明かりに灯油が使われ、建材としてボール紙と木材が広く使われている。そのため火事は大きな危険要因となっている(South Africa 1998)。

干ばつや洪水のような極端な天候は、世界中のどの地域社会をも荒廃させてしまう(Box 2.3参照)。しかし、辺境地域の不安定な住居に住んでいるのはしばしば貧しい人々で、彼らはそのような危険に非常にさらされている。1998年、インドにある6万以上の村々は、豪雨、地滑り、洪水、ヒョウの嵐、サイクロン、そして干ばつに打ちのめされた。極端な天候は、直前5年間の救済資金の合計を越えるほどの莫大な経済的犠牲を強いるものであった。このような状況の下、貧しい人々は最悪の影響を受ける。例えば、グジャラートのサイクロンにより、頑丈な家が3000戸破壊されたのに対し、粗末な小屋の1万3000戸以上が倒壊した。<sup>2</sup>

大災害は、既存の不安定要素をより脆弱にし、伝統的な対応を不可能にしてしまう。実際、スワジランドやザンビアの貧しい人々は、干ばつを最も深刻な問題としてとらえている(Swaziland 1997; Zambia 1997)。同様に、インドのボランギール地域の住民は、5年周期の干ばつから立ち直るのは不可能であると述べている。その理由として、農作物の損失、負債、飢餓、土地の譲渡、財産の売却、そして近くの森林資源の壊滅的な破壊が挙げられる。干ばつの時期に、家庭の消費は半分以上落ち込む(India 1997a; India 1998a)。<sup>3</sup>ベニンの報告書(Benin 1994)は、血縁関係を基礎としたセーフティネットが破る、洪水の被害を次のように描いている。

3年前は最悪な年でした。洪水が全ての農作物を洗い流し、この辺りでは多くの人が飢えに苦しみ、実際に多くの人が餓死する状態にまでなりました。死者は少なくとも12人にのぼり、そのほとんどが子供や年老いた人々でした。誰も彼らを救うことはできなかったのです。彼らの村に住む親戚も食べ物が多くなかったのです。誰も自分の子供に与えられる食べ物を持っていなかったのですから、兄弟やいとこの子供にあげる食べ物など言うまでもありません。そして他の地域に住んでいて助けを得られる親戚を待つ人はほとんどいませんでした。

—ベニンで実施されたPPAの報告書より, Benin 1994

## 財産と脆弱性

1回の凶作の後、元通りに戻るのに3回の豊作が必要である。

—ベトナム実施されたPPAの報告書より, Vietnam 1999a

土地を売ったので、今は、何もありません。毎年地価が高騰するので、もはや土地を買い戻すこともできないのです。

—タンザニア実施されたPPAの報告書より, Tanzania 1999

(私はまるで)誰かがドアを開けてくれるのではないかという望みを持って、親戚の家の閉ざされたドアの前で、シクシク泣いている迷い犬のようです。

—グルジアの2児の母, Georgia 1997

PPAの分析によると、貧しい人々の恐怖は、財産がないこと、先の見えない不安定な環境で生きることに対する不安に関係している。この不安には、経済的、社会的、そして環境的な不確実性が含まれる。

脆弱性とは、一般に基本的な財産の欠如として認識されている。それは個人や家族、地域社会を極貧という危険にさらすものである。つまり、財産が少なくなればなるほど、貧困の危機は増し、逆に、財産が豊かになればなるほど、その危険を回避しやすくなる(Moser 1998)。10年以上も前に、ロバート・チェンバースは、貧困削減政策が貧しい人々の脆弱性の問題をおろそかにしがちであると述べた。貧困削減政策は、個人や家族、地域社会を貧困の危機にさらす特定の要因を調べずに、消費や所得レベルに焦点をあてがちである。しかし、脆弱性について調査すれば、「貧しい人々が無防備で、不安定であり、そして、危険、精神的衝撃、ストレスにさらされている状態」を明らかにするであろう(Chambers 1989)。

脆弱性は、常に多くの要因が絡み合った結果生じる。干ばつと家畜の盗難に苦しめられているスワジランドのある地域の貧しい人は、次のように説明する。

多くの人々は、家畜の収入で子供達を学校に通わせていました。畑を耕す時、雄牛を使い、種をまく時には種や肥料を買うために家畜を売ったのです。そして、干ばつの時には、家族が次の収穫の時まで乗り切るため、何頭かの家畜を売りました。しかし今は、(盗難にあったため)多くの囲いの中は空っぽで、子供達は学校を辞めざるを得ません。そして、種や肥料を得ることができなくなり、干ばつの間はずっと飢えに苦しめられるでしょう。

—スワジランドで実施されたPPAの報告書より、Swaziland 1997

## 家庭と職場における脆弱性

ある農家の家族は、3世代を養うために毎日きつい肉体労働をしている。この男性は、同じ農家で生まれてからずっと働いているが、何も所有せず、少しの貯金も、自転車さえも持っていない。このような人々は、ただ生きるだけで精一杯なのである。

—南アフリカで実施されたPPAの報告書より、South Africa 1998

貧しい地域社会で最も脆弱な住民は誰かという問いに対し、よくある最初の答えは、皆貧しいというものである。これはケニアのモンバサの地域社会でもそうだった。さらに考えた末、彼らは「独身の母親、孤児、子供、大家族を持つ男性、失業中の若者、10代の母親、臨時労働者、そして無責任な夫やアルコール中毒の夫と結婚した女性」を最も脆弱だとした(Kenya 1997)。子供、高齢者、未亡人、慢性的な病気を患っている病人、そして身体障害者は、しばしば最も脆弱な人々とされる。彼らは、自活や家族を助けることができず、他者からの援助に依存し、

同時に、その相手の負担となり続ける。家族が貧しいと多くの場合、弱者はおろそかにされる。インドのPPAによれば、「一般的に、弱者ができることは限られており、彼らの能力を伸ばそうとすることは無意味であると理解されている」(India 1997a)。ベニンの比較的安定した家族には、健康で生産力のある大人の割合が高いということは、何も驚くべきことではない(Benin 1994)。

子供を養うという責任があるため、女性はしばしば最も脆弱だとされる。また、女性に対する資源と決定権を制約する文化的規範や法的制約は、女性の脆弱性を助長している(Togo 1996; Swaziland 1997)。バングラデシュの農村部の女性は、農場や土地の所有権にとっても関心を持っている。なぜなら、そのような所有権は、彼女達に安心感をいくらか与え、融資の安全な担保となるからである。小さな農地で、「女性は、養鶏、園芸、家内工業など、収入を得る多くの選択肢を手にいれることができると考えている。また、ほとんどの女性は、家を出て、賃金労働者となることができないと思っている。そして、彼女達は、未亡人、離婚者、見捨てられた妻となるかもしれないという将来の不安も抱いている」(Bangladesh 1996)。

イエメン共和国のPPAによれば、働くことや、自分のことが自分でできない幼い子供のいる母子家庭は、著しく脆弱である(Republic of Yemen 1998)。パキスタンのPPAでは、このような家庭は、低所得で、仕事の選択肢が少なく、労働力も低下する(Pakistan 1993)。また、インドのいくつかの地域では、主婦は、家族全員が食べ終わった後に食事するものとされ、食料が不足している時は、女性が食べる物が何も残っていないこともある(India 1998a)。フィリピンの女性は、「食べ物が不足している時、子供と夫に1日3度の食事を取らせるために、私は、1日1度しか食事をしません」と述べている(Philippines 1999)。

財産は、通常、家族のものと考えられるが、特に危機の際、財産をどう使うかという決定権を持つのは一般的に男性である。そのような状況の中で、「個人的出費や臨時出費に備えて、いくらかの貯蓄をしようとする女性がいる。しかし、医療費、病気又は失業中の食費といった家庭の危機に用立ててしまうのが常である。そして、彼女達のへそくりが見つかると、彼女達の立場はさらに弱くなるのである」(Pakistan 1993)。

脆弱性の1つの特徴は、依存、特に搾取されやすく、乏しい、不安定な資源への依存である(Box 2.4参照)。資源が不足すると、人は容易に脆弱になる。脆弱性は恐怖をもたらすのである。

たとえ女性が生産的な財産に対するいくらかの支配力を持っているとしても、それには男女の違いがある。家畜が重要な財産であるパキスタンでは、男性が通常牛を飼うのに対し、女性は、ニワトリやヤギなどの小さい家畜を飼う。そして、こうした小さい家畜は、より簡単に買い換えることができるため、初めに売られて

## Box 2.4 ムラリの話

ムラリは現在ケダルクイ村で家族と一緒に生活する30歳の男性である。5年前、彼は最も支配力のあるカーストであるタクルの下で、農業の契約労働者として働き始めた。そのタクルは、周囲の村々で金貸しもしていた。5年前、ムラリは思いがけない緊急の出来事のために、およそ1000ルピーのお金を融資してもらった。その借金のために、ムラリは年5000ルピーの賃金しか受け取らず、タクルの農場経営者の下で働く農場労働者となることを強いられたのである。このタクルの農場経営者兼金貸しは、ムラリと彼の家族の住む家、食べ物、それに雑費のためのお金をいくらか渡し、それをすべて帳簿につけていた。

最初の2年間働いた時点で、ムラリのタクルに対する借金は2500ルピーとなった。2年間の労働後、借金の利子、食費や家賃、それに最低限の生活を維持するための小額の借金のために、借金は最初に借りたお金の250%に増えてしまったのである。しかし、このような惨めな状況にも関わらず、ムラリはタクルの農場を離れ、もっとお金を稼げる仕事を探すことはできなかった。もし、彼が農場を離れたり、逃げたりしようとするれば、金貸しが彼を追いかけてきて、捕まえ、その仕打ちは疑いなくひどいものだろうと言われていた。農業労働者として、また、タクルの家の召使いとして5年間働いた後も、ムラリには8000ルピー以上の借金があった。ムラリや他の似たような境遇の人々は、金貸しの非道なやり方とその搾取を受け入れざるをえない、契約労働の悪循環に陥ってしまうと自分達は無力であると気づく。しかし、最貧層の多くの村人にとっては、他に金を借りる手立てはなく、特定の状況下では地元の金貸しの搾取的な条件を飲むより仕方がないのである。

出典：India 1997a

しまう(Pakistan 1993)。

最後になるが、貧しい人々が従事できる仕事は、しばしば身体的危険を伴う。障害を残すような、或いは致命的な負傷、暴行、病気、そして精神的虐待を負う例が数多く見られる。例えば、ガーナでは、専門技能を必要としない市場の貨物

車押しや荷積みといった職業は、病気、身体障害(一時的又は永続的)及び虚弱を極めて引き起こしやすい。専門技能を必要としないガーナの労働者は、口約束を守らない管理人や雇用者からの虐待について不満を述べている(Ghana 1995a)。

他のPPAは、干ばつの惨状から逃れ、薪を集めて近隣の街に売りに行ったり、水田での苗木の移植作業をしたりと、1日20時間働くインドの出稼ぎ女性について報告している(India 1998a)。また、南アフリカの報告書は、多数の危険な仕事について言及している。例えば、75歳の高齢女性がしっくいをぬるために泥やふんをかき混ぜたり、25リットルの水のドラム缶を運んだりしている。そして、南アフリカの報告書は、伝統的な職業に加え、ごみ収集や売春など、危険性の高い仕事についても述べている。「クラケールの地域社会において、賃金労働者の主な仕事は、果樹園やりんごの加工工場である。これらの仕事は、過酷な肉体労働を必要とし、健康に多大な危険を引き起こしている。ある工場はダムの上であり、床は濡れて、冷たい。ある女性は、その工場の労働環境からくる足のはれや痛みを訴っていた」(South Africa 1998)。

また、女性は仕事仲間や支配人からのセクシャルハラスメントを頻繁に訴えている(India 1998a; Pakistan 1993)。

## 結論

貧しい人々による貧困の定義や理解、また彼らが所有するわずかであるが争いの絶えない財産の管理方法について、重要な点がPPAのデータから導き出されている。貧困は複数の要素が絡みあった多面性を持つ。その中でも、貧困の定義として、食料が不足している点や生計が苦しい点に焦点が当てられている。しかし、印象的なのは、依存度や力、発言力の欠如が、貧しい人々による貧困の定義の本質的要素とされている点である。貧しい人々が無力で発言力がないということは、脆弱性の意味合いが強まり、自分自身を危機的状況から守ることができないという議論の基礎となる。また、貧しい人々は、財産について多くのことを語るが、収入についてはあまり語らない。これらの調査結果は、私達がどのように貧困というものを評価すべきかについて示唆している。

貧しい人々が蓄えている財産と、その財産によって危機に対する脆弱性がいかに軽減されるかについての調査から、以下の3点の調査結果が導かれた。第1に、社会的、経済的、環境的逆境を乗り越えるために用いる財産は、その性質上、様々な側面を有している。そして、この財産は有形、無形を問わず、多くの物理的、人的、社会的、環境的資源から成り立っているのである。ある主要な資産を

欠く家族は、必ずしも貧困であるわけではない。しかし、貧困や危機的状況に陥ると、その家族は極めて脆弱になってしまうだろう。

第2に、貧しい人々が所有できる財産は、限られており、争いの原因でもある。困窮時に財産を利用できる能力は、家計から公的機関まで、数多くの段階におけるこうした資源を支配する権力関係に直接関係する。この能力には、男女間に大きな相違がみられる。また、ほぼ明らかになっていることであるが、財産を利用するには、資源に対する力や支配関係とうまく対応しなければならないのである。

最後に、親族や社会ネットワークの一員であることや、健康、労働、土地といった財産、自身での供給が可能である他の資源と比べて、貧しい人々は、あまり収入について語ろうとしない。実際、ガーナの報告によると、「安全な暮らしは、しばしば収入を最大化することよりも重要となる」(Ghana 1995a)。この報告は、対処不可能な危機的状況に対する貧しい人々とその社会が有する脆弱性を考慮すると、驚くべきことではない。こうした調査結果は、政策決定の観点から、慎重に考慮される必要がある。社会関係は財産であり、貧しい人々は交渉する能力が乏しい。したがって、貧しい人々のもつ組織力及び参加する過程が非常に重要なものとなる。

## 事例研究2.1 東欧と旧ソ連について

### 体制崩壊、突然の貧困

貧しい人にとっては、全てが辛いことばかりです。病気、屈辱、恥辱。私達は障害者です。すべてに対して恐怖心を抱き、全ての人に依存しているのです。誰も私達を必要としていません。私達は皆が避けたがるゴミみたいなものなのです。

—モルドバのティラスポルの目の不自由な女性, Moldova 1997

あなた達に自分の状況をどうみているのかと聞かれると、とても不愉快になります。私にはどうしようもないのです。…(肩をすくめて)しかし、私は自分が貧しいということを知っています。

—マケドニアで実施されたPPAの報告書より, Macedonia 1998

多くの例によると、この地域で生活している人々の状況は、多くの開発途上国の人々と比較しても良好である。しかしその一方で、人々は著しい屈辱、恥辱、当惑、そして混乱を感じながら、ここ数十年の社会的・経済的に厳しい状況に対応してきた。数十年続いた、政府により保証された安定した雇用、十分な食料、

住宅、教育、医療や生活水準は、浪費家でない限り、ほとんどの人々にとって十分なものであった。しかし、共産主義の崩壊は事実上、すべての社会支援体制を急速に衰退させた。そして、この地域に住む人々は、自分達の貯蓄や、少しずつ貯めた財産がだんだんなくなり、やがて消えていくのを目のあたりにし、多大な不安を募らせてきた。

あるモルドバの年老いた年金生活者はこうもらしている。「(独立以前は)私は2000ルーブルをまさかの時や自分の葬式のために銀行に預けておきました。その当時、それは十分だと言える金額でした。しかし今、私は2レイ持っているだけです。それで何が買えるのでしょうか」(Moldova 1997)。彼らがかつて得ていた保証を失ったことは、深い失望感と絶望、将来に対する不安を生み出したのである。

東欧と旧ソ連の貧困を定義する方法は、ジェンダー、経済統計、また1980年代終盤から1990年代初頭の社会・経済移行期以前に貧しい人々が社会経済階層の中でどのような立場にいたのかなど、いくつかの要因によって異なる。最貧層の人々は基本的な貧困の一面を例に挙げて説明する傾向がある。それは飢え、質・量ともに不十分な食事、貧しい生活環境、健康問題などである。これらの次に、子供達に必要なものを与えてやれないこと、かつて彼らが親しんだ伝統を維持できないこと、意義のある文化的で知的な生き方ができないことを取り上げる傾向がある。多くの貧しい人々の心の中で、市場経済、「独立」そして「民主主義」への移行は、かつてない程の脆弱性や反社会正義と同一視されるようになっていく。

その地域の至るところに、貧しい人々が貧困に対処するために作り上げてきた無数の生き延びる方法が存在している。非常に重要な財産として、個人や家族が所有する土地へのアクセスが挙げられる。ほんの少しの土地ですら、家族の食料を自給自足で賄うことや、出費を抑える可能性を与えてくれるのである。また、収穫した食べ物や他の物やサービスと交換することができる。家族は出費を大幅に減らし、食料や住居などの最も基本的な必需品にだけにしかお金をかけない状況を強いられてきた。肉や新鮮な果物、野菜などは貧しい人々の常食からほとんど姿を消し、安くて栄養分が少ない炭水化物を多く含むパンやジャガイモ、麺類のような食べ物がそれらに取って代るようになった(Box 2.5)。

保健・医療にかかる支出は削減されたり、廃止されたりしたために、貧しい人々は、ますます家庭での治療や伝統治療に依存するようになった。さらにこの地域の貧しい人々は、生きていくための対策として、所有していた財産を売却してきた。年金生活者も同様に、所有物を売却することに依存している。これは生涯を通して貯めてきた多くの所有財産があるからこそできることであり、同時に、高い医療費を払う必要性に迫られたために生じたことでもある。また、不定期的にしか供給されない不十分な年金を補助する手段としても重要である(Azerbaijan 1997)。

## Box 2.5 食料：最終的な貧困の基準

家にパンがないので、お腹がすいて、夕方には床についてしまうことがあります。これが貧困なのです。

—マケドニアで実施されたPPAの報告書より, Macedonia 1998

あの人は貧しくて、1ヶ月のうち20日は、ゆでた芋をバターなしで食べ、紅茶を砂糖なしで飲んでいきます。配給されるパンを買うお金もないのです。

—アルメニアで実施されたPPAの報告書より, Armenia 1995

イバンとロリータ(定年間近の旧集団農場の労働者)は今、彼らの庭で育てている食べ物、イバンがみつける様々な仕事の収入、そしてロリータが森から拾ってきた物を売ってなんとか生活をしています。彼らは主に芋を食べて生活をし、去年の冬はパンを少しも口にすることなく過しました。ここ2ヶ月間はジャガイモで作ったパンを食べて暮らしています。ジャガイモを挽いて粉にし、油と混ぜて焼いたものです。だから、ロリータは丸ごと1個のパンを見ると泣き出してしまいます。

—ラトビアで実施されたPPAの報告書より, Latvia 1998

他の人はどんな生活をしているのかと考えると、自分が貧しいと感じてしまいます。なぜなら私は自分の子供に必要なものを与えてやることができないからです。もし職に就いている人がそれでも自分や子供のパンを買うのにも困り、なんとか生計を立てているというのなら、これは正常なことではありません。

—ラトビアで実施されたPPAの報告書より, Latvia 1997

一体どうやって冬を乗り切れればいいのでしょうか。夜も腹痛と飢えのために起きてしまいます。

—モルドバの旧集団農場の労働者, Moldova 1997

私にとっての貧困とは、黒小麦粉（他の小麦粉より安いもの）を最後のお金で買うことです。それでパンを焼いてみても食べられたものではありませんでした。私達は言葉をなくし、それでもそのパンを無理矢理食べました。他に食べるものなんてなかったのです。

—マケドニアで実施されたPPAの報告書より, Macedonia 1998

## 屈辱と恥辱

もし私自身が貧しいことを公然と認めてしまったら、私の生活は精神的により厳しいものになるでしょう。

—ラトビアの45歳の女性農学者, Latvia 1998

旧ソ連の貧しい人々による貧困評価は、彼らが自分の貧しさに直面した時や今の生活状況を説明するよう言われた時に感じる強烈な恥辱や屈辱を、世界中のどの地域の報告よりも色濃く表している。旧体制下では、貧困は怠惰や無能からくるものだと言われていた。また、多くの場合、貧困は罪であるとさえされていた。貧困は主に個人の失敗や、社会的に好ましくない家庭の特性や教育方法の結果から生じるものと認識されていた。したがって、貧困は社会的・道徳的価値の欠如だとされていた。このような考え方は、貧困分析が、国民全体に福祉を提供するはずの中央政府の権力や正統性に対する挑戦だとみなされていた共産主義体制の部分的な遺産ともいえるものである。ソビエト・イデオロギーにおいて、貧困は社会からの逸脱と関連した社会現象だと捉えられがちである (Georgia 1997; Azerbaijan 1997)。

貧困から個人や家庭の欠点を連想することは、依然として社会の精神構造の中に強く残っている。モルドバのPPAによれば、このような状況において、少なくとも見栄を繕うことは、人々が物やサービスを確保するための社会的つながりを維持するのに不可欠となっている (Moldova 1997)。したがって、労働生活を送ってきた人々にとっては、あまり成果のないことをしながら、自分や家族の生活を維持するために極端な手段に走ることを余儀なくされていながら、改めて現在の貧困を認めることは非常に困難なことである。貧困を認めることは、すでに耐えられない状況をさらにひどくする。

そのため、ラトビアのPPAで報告されているように、多くの場合、人々は自らの

貧困を友人や隣人に隠そうとする(Latvia 1997)。PPA調査の質問に対する回答の中で、多くの人々は自分が貧しいということをただ否定し、貧しいという言葉ではなく、「中流」「貧困に近い」又は「恵まれていない」といった表現を使っている。アルメニアのある村人はこう言っている。「ある人が貧乏であったとしても、私達は彼はあまりよい生活をしていないと言うだけです」(Armenia 1995)。もし自分達の本当の経済的地位を知られてしまったら、地域社会での名誉や尊敬を失い、子供達の将来の可能性も損なうのではないかと、人々は恐怖心を抱いている(Macedonia 1998)。

ラトビアの貧しい人々は、「私達の状況は中くらいでしょう。なぜなら私達よりもさらにひどい状況にいる人達もいるのですから」と言いながら、「必要なものはたくさんあります。けれども、私達は何も手に入れることができないのです」と述べている(Latvia 1997)。モルドバにおいて、調査員の目に明らかに貧しいと映った人々でさえ、自らを貧しいと表現する者はほとんどいなかった。そればかりか、彼らは完全に「貧しい」というのではなく、「少し貧しい」という表現の方を好んだ。以前物理の大学講師をしていたグルジアのトビリシの男性は、家族を支えるために、お抱え運転手の仕事をせざるをえなかったと言う。彼は、知っている人にリムジンを運転しているところを見られ、屈辱を感じるようなことのないよう、別の町で仕事を見つけた。「首都トビリシで運転手の仕事をしていたら、きっと恥ずかしいと感じていたでしょう。ここでは誰も私のことを知りません。それでもつらいことがあります。最近、以前の生徒達に偶然出くわしてしまったのです。彼らにこの車とアパートは自分の物だと嘘をついてしまったことを思い出すと恥ずかしいのです。彼らは私が会社の重役だと思っています」(Georgia 1997)。

屈辱感の多くは、強固に維持されている社会基範に見合った振る舞いが急にならなくなってしまうことから生じる。このような基範がもはや維持できない状態になった時、人々は自分の殻に閉じこもり、社会的に孤立し、うつ状態になったり虚無感を感じたりする。このような心理的犠牲は、地域社会や親族、又は家庭単位でさえもその結束力に悪影響を及ぼしている。

例えば、多くの人々、特に高齢者にとって、依然として、きちんとした葬式を行うという保証は優先されるべき事柄である。きちんと埋葬し、愛した人に敬意を払うことができなければ、その家族の名誉が損なわれることがある。例えばグルジアでは、葬式は社会的連帯を自らの家族や他の人々に示す機会として、重要な象徴性と社会的意義を持っている。葬式は家族の威信、名誉、そして繁栄を正しく示す機会なのである。そして、故人の友人や親類は葬式に参加し、贈り物を持ってくるものとされている。社会主義時代では、グルジア人の高齢者のほとんどは、葬式にかかる相当の額のお金を貯めておくことができた。しかし現在は、

大部分人々は蓄えの大半を失ってしまっている。高齢者達は今、財政的、物質的に家族に頼らざるをえない自らの立場に気づいている。その一方で、彼らは少しずつ貯めてきた貯蓄の残りで暮らし、いつか来る自分の葬式費用にするため、蓄えを家族に残している (Georgia 1997)。

アルメニアでは、葬式が今でも大きな社会的意義を持ち、地域社会での社会的連帯を構築する重要な位置を占めている。故人の家族は、葬式に招待した地域住人に、料理をふんだんに振舞う責任を負っている。また、招待客達は贈り物を持ち寄るのが慣例であるが、特に貧しい家庭にとって、葬式の費用は貯蓄を使い果たし、負債を背負うことになる (Armenia 1995)。アゼルバイジャンの人々は、家族に満足の行く葬式をしてあげられないのではないかと激しい当惑と不安があると言う。土地を追われたある女性は、自分が埋葬してもらう時につつんでもらおうと思っていた最後のカーペットさえ売らなければならないかもしれない状況に、羞恥心と当惑を感じている (Azerbaijan 1997)。

これは葬式だけに当てはまるものではなく、他の社会的な行事についても同様である。客人をもてなすことは、社会的連帯の構築や維持、地域社会での社会的地位の確立に重要な役割を果たしている。アゼルバイジャンでは、適切に來客を接待することは社会的地位の重要な指標である (Azerbaijan 1997)。しかし、かつては大きく、贅沢だった社会行事も、小さく、限られたものになっている。もてなしの心が重要とされているグルジアにおいて、人々は招待するのも、招待されるのも恐れ、結婚式や葬式を避けることがよくある。主催者側は何ももてなすものがなく、客側は主催者に持っていく贈り物が何もないのである。パーティーはとても屈辱的なものなのである。

ウクライナの35歳の運転手は、家族が結婚祝のために、慣例通り150人の客を招待できた頃の思い出を語った。今では、結婚式を開いても招待客はほとんどなく、少数の家族だけに限られてしまった (Ukraine 1996)。モルドバのある貧しい人はこう言っている。「モルドバ北部において、結婚式は家族の財産を表わすとされています。両親は一生かけて結婚式の準備を行うのです。彼らは若い夫婦のために家具や冷蔵庫、テレビなどを購入するためにお金を貯めています。ソビエト時代、両親が子供に盛大な結婚式を開いてやれないことが大変な恥だとされていました。それは彼らが貧しいということに他ならず、貧しい人は怠惰だとされていたからです。結婚のプレゼントとして、子供達に家と車を贈る両親さえいました。また、当時の結婚式は、文化的価値のある宮殿やレストランで大きなテントを張って行われていましたが、今ではただ家で行なわれるだけです」 (Moldova 1997)。

グルジアのある女性は、結婚式の招待を受けそうになった時、贈り物を用意する余裕がなかったため、電話線を切ったと言う。そうすれば電話が故障中だった

ので招待を受けるのが遅かったという言い訳ができるからである (Georgia 1997)。また、あるラトビア人はPPAの調査員にこう言っている。「ここ2年間、私達はずっと祝日を他の人達と祝っていません。私達には誰かを家に招く余裕もないし、何も持たずに誰かの家を訪ねるのは気が引けるのです。かといって、他とあまり連絡をとらなくなると、気落ちし、不幸な気持ちが続き、自尊心が低下してしまいます」(Latvia 1998)。

モルドバの貧しい人々は、貧困とは社会的にどんどん孤立していくことだと言う。それは、かつて人を集め、社会的連帯を形成し、維持するのに一役買っていた社会的な祭礼や伝統行事に、彼らが徐々に参加できなくなってきたためである。彼らは、貧困がこのような伝統を衰退させていると感じている (Moldova 1997)。同じように、ウクライナの最貧困層の人々も、つきあいの一環として誰かを招待する余裕がないと述べている。それだけではなく、ほんのささやかな贈り物も買うことができないため、たとえ招待されても断らなければならない。年金生活者である両親と妹、それに姪と一緒に暮らす26歳の女性はこう述べている。「もう1年も女友達に会っていません。ささやかな贈り物でも持たずには行けないからです。私達は何もせずただ家にいて、どこへも出かけません」(Ukraine 1996)。また、「自分はこの社会で何の役にも立たないのではないかと思います」と20歳のマケドニアの男性は言っている。「私はたびたび失望しています。仕事を探しているのに何も見つからないからです。お金を持っていないことを知っているので、両親にお金のことは頼みたくありません。そして、私はお金がないので、よく女性達を避けてしまいます。自分の飲み代さえも払うことができない立場にいる自分が恥ずかしいのです」(Macedonia 1998)。そして、妻であり、14歳の息子の母であるマケドニアの51歳の女性は20年間続けてきた仕事を「技術的な余剰」という理由で失った。彼女は「誰かが来ても、コーヒーさえ出せず胸が痛みます。私は今の自分を恥に思っています」と述べている (Macedonia 1998)。

旧ソ連において、威信はとても重要なものであった。そして、学歴、職業、家族の社会的地位はその人の威信に大きく関わる要因であった。威信と地位があれば、貴重な物やサービスを享受することができるため、現在でも重要なものとされている。地位は物理的、精神的な影響力を持ち、それを失うことは決定的な打撃となる。人々は名声のある仕事を辞めることより、物を売却することを選択する (Georgia 1997)。学校の教師は、もはやきちんとした服を着て授業をすることができないために、教室内での敬意が失われていると感じている。あるトピリシの教師は、8歳の生徒から、先生はどうしてテレビにでてきた乞食みたいなのか、と尋ねられた時の屈辱感を伝えている (Georgia 1997)。

## 貧困を甘受する

自分よりもひどい生活をしている人もいれば、よい生活を送っている人もいます。私のことを貧しいと思う人もいれば、そうでない人もいます。けれども、以前の状況と比べたら、今の私は乞食同然です。

—アルメニアで実施されたPPAの報告書より, Armenia 1995

以前の楽しかった生活や、場合によっては周りの人々の生活と比較して、人は貧しさを考える。

—ラトビアで実施されたPPAの報告書より, Latvia 1998

東欧や旧ソ連の人々は、現在の自分の経済状態を以前の生活水準や、他の人々の現状の両方と比較し、考える傾向がある。これらは社会的地位の変化を合理的に理解し、心理的に彼らのつらい経験を癒すための方法である。これは、この地域の報告にみられる最も一貫した特徴の1つである。貧しい人々にとって、現在と過去の状況を比べることは、現在の状況に対する責任を客観化させる方法である。貧しい人々は、すべての人を貧困に陥らせた具体的な出来事を指摘し、自分達より生活が苦しい人達のことや、富裕層の罪と2面性を例に挙げることによって、貧困は個人的な落ち度から来るものではなく、どうすることもできなかった出来事から生じたものだと考えている。ここで言う出来事とは、独立に伴う変化や、何千もの人々をホームレスにした1988年にアルメニアで起きた地震のような衝撃的な事件である (Armenia 1995)。

40歳以上の人々はよく歴史的な比較をする。彼らはしばしば社会主義の時代を郷愁や喪失、遺憾の念を持って振り返る。マケドニアのある人は「当時はそれ程大きな貧富の差なんてなかったし、貧困も存在しませんでした。皆が中流階級できちんとした暮らしをしていたのです」と述べている (Macedonia 1998)。現在の状況と1989年以前のを比較して、あるラトビアの回答者は、「どんなことがあっても別に問題はありませんでした。そんなに豊かな暮らしをしたこともなかったけれど、誰にも依存していなかったのです」と話す (Latvia 1997)。2児を持つ、ラトビアの無職の独身の母親はこう述べている。「他の人達は自分のために新しいものを買うのだと思いますが、私は何も買えません。1人の人間が生き残って生けるかどうかなんてそんなに重要なことではなく、誰も気にしないのです！」 (Latvia 1997)。

グルジアでは1992年に物価が10倍になり、1993年まで毎月100～300%ずつ上昇した。ある男性は、その超インフレ以前は、車を買えるほどのお金を持っていたが、今ではそのお金で買えるものはパン4斤だけだと言う (Georgia 1997)。ウク

ライナでもインフレの問題は同様であり、「以前は、2部屋で生活している4人家族の家庭が、家や家具、洗濯機のような大きな買い物のための貯蓄をすることができないなら貧しいとみなされていた。しかし、そのような家庭でも食料、住居、公共料金、休暇、それに衣類などは簡単に支払う余裕があった」(Ukraine 1996)。しかし今では実質的に、それらの全てを手に入れることができず、単に、食料や保健・医療、家族に適した生活空間を確保することが大変な苦勞なのである。

自分の立場を他人と比べることは(貧困を説明することと同時に)2つの役割を果たす。まず、多くの人々は自らの貧困を認めないようにするため、最貧層の人々の劣悪な状況の例を指摘する。「私の生活状況はとてもつらいものだ」と調査員に語った上で、モルドバの貧しい人々は言う。「けれども私にはまだ食べるものがあるし、着るものもあります。今朝、2人の女性がゴミの中にあった食べ物をみつけて食べているのを見ました。これこそが貧困です！」(Moldova 1997)。

次に、自分達よりも裕福な人々の富は、腐敗や不正により得たものだととして、人々は自分達と比較する。グルジアでは、特に40歳以上の人々にとって、新しい市場経済の原則は、彼らの基礎となる価値観を侵害しているように感じられるのである。旧体制下において、人々は「ビジネスとは『投機』であり、『投機』は不正かつ違法にお金を稼ぐ手段である」という信念を持っていたため、彼らはこうした心理的障壁を乗り越え、しばしば(新しい市場関係の象徴とされる)街で商売や商業に従事している隣人と自分自身を比較する。彼らは国家産業の一環としてわずかな給料で働き、所有物を売却してでも、自尊心や仲間を尊重することを保ちたいと主張している(Georgia 1997)。

役人、商売を営んでいる人々、さらに一般的には不足している資源を支配している人々との関係を維持することは、貧困から逃れるために不可欠である。しかし、貧富の格差が広がる中で、多くの人々はかつて持っていた関係を失ってきている。グルジアの貧しい人々によく「資本主義」や「市場関係」を、社会ネットワークの外にいる人達への影響を全く考慮しない利己の利益の飽くなき追求と同一視する(Georgia 1997)。また、ウクライナでよく言われている次の話は、新経済体制の下でお金を稼ぐことや、物やサービスを牛耳っている高官とのコネを持つことの重要性についての人々の見方を反映している。

国連職員が、ドイツ人、アメリカ人、ロシア人の3人のパイロットに、国連空軍の面接をしている。ドイツ人は経験があり、3000米ドルの給料が欲しいと言った。アメリカ人はすばらしい訓練を受けていて、6000米ドル欲しいと言った。そして、ロシア人は9000米ドル欲しいと言った。経験を問われると、ロシア人はあっさり自分は飛行機

を操縦したこともなければ、軍隊にいたこともないと認めた。驚いた国連職員はロシア人にどうして9000米ドル欲しいのかを尋ねると、彼は笑いながら説明した。「簡単だよ！あなたの分が3000米ドル、私の分が3000米ドル、そして残りの3000米ドルはドイツ人に。彼にやらせればいいんだ！」

—ウクライナで実施されたPPAの報告書より, Ukraine 1996

この笑い話はお金を稼ぐことへの観念や態度がいかに変わり、またいかに「1人の人が規則を曲げてしまうことで、知人を利用して他人がお金を稼ぐことが可能になる」のかを表している (Ukraine 1996)。「私達には私達の問題がある」と、あるラトビアの男性は言っている。「それは、どうやって生き残ればいいのかということです。彼らには、どうやって富を守るのかという、彼らの問題があるのです」 (Latvia 1998)。

## 農村と都市：異なる財産、異なるニーズ

農民は、今では都市にすむ人より10倍いい暮らしをしています。しかし彼らは10倍一生懸命働いているのです。

—アルメニアの農学者, Armenia 1995

農村の貧しい人々そして都市の貧しい人々は、それぞれ、食糧や基本的なサービスを手に入れることへの困難さを指摘している。文献では、農村部の貧困は自給自足ができるため、都市部の貧困よりましであるとされることが多いが、所得統計を見ると、都市部より農村部の方が、貧困がより広がっており、厳しい状態であることがわかる(例えばKyrgyz Republic 1998参照)。世界中のその他の地域でも、農村は伝統的に、交通、保健・医療、学校などの基本的なサービスを受けにくい状況にある。

グルジアでは、都市と農村の双方で、大人は何日間も食べ物なしで生活したという報告がある。これは特に子供達に与える食べ物だけは確保した結果である。農村部は主に穀物の実る前の早春と、食料供給がなくなった後が飢えの季節となる。しかし、都市部において、飢えはより深刻になりやすく、長い間、(少量の)パンと紅茶だけで生きたことがある、と人々は報告している (Georgia 1997)。

野菜を栽培することのできる小さな土地を持っていること、もしくは食べ物を作っている人と特別な関係を持っていることは、都市の家族にとって重要な財産である。実際に、少なくとも農村の人々は飢えにくいという考えは、都市に住む

人々の間で常識となっている。「町には何でもあるからと言って、私達にどんな利益があるでしょう」とあるマケドニアの女性は問いかける。「物を見ても、それを買うお金はありません。もし村に住んでいたら幸せだったでしょう。もし小さな土地を持っていたなら、私は作物を植えて、牛を育て、貧困に別れを告げるでしょう」(Macedonia 1998)。アルメニアでは、親戚のネットワークを利用し、土地へのアクセスを向上させるために、都市から農村へ移住するという傾向が若干ある(Armenia 1995)。

それにもかかわらず、ラトビアの農村の貧しい人々は、しばしば孤立していると感じ、交通、学校、診療所などの重要な基礎的インフラストラクチャーが不足していると報告している(Latvia 1998)。例えば、マケドニアにおいて、農村に住む人はよく、基本的なサービスの不足によって自分達の状況が都市部よりも厳しいと言う。「私達の村には4年制の小学校が1つと店が1つしかありません」とある貧しい人は言う。「子供達は近くの町まで行き、教育を受け続けなければなりません。それに私達は医療を受けるために、町まで行かなくてはなりません。どんなものでも必要なものは都市まで行って買わなければならないのです。こういうことに余分なお金がかかってしまいます。」

ラトビアでの調査によって、都市の貧困はよりありふれたものであることがわかった。人々は隣人の状態にそれほど注意を払わず、ゴミの中から食べ物をあさっている人々を無視している。都市に住む人は、以前楽しんでいた文化的、社会的活動ができなくなってしまったことと貧困を同一視する傾向がより強い。

## 脆弱性と絶望

以前、年金生活者は、年金で子供達を助け、さらに自分達のためにいくらか蓄えておくことができました。しかし、今はベッドに寝て、死に逝くだけです。

—ラトビアで実施されたPPAの報告書より, Latvia 1998

あなた達が子供を産んだのです。自分達で、このどうしようもない状態をどうにかしたらいい!

—ウクライナの母親達が貧しい子供達への援助を求めたときの政府職員の回答, Ukraine 1996

以前、社会主義制度下で、国から主要な援助を受け取っていた高齢者や身体障害者、子供(特に孤児)、失業者、そして十分な社会支援のネットワークを持た

ない人々は、現在特に困難な状況にある。

地域を通して、高齢者が最も厳しい状況にあるといえる(Box 2.6参照)。国からの最少限の年金に頼って生活をしている彼らは、すでに余裕のあまりない子供達や親類に依存している。モルドバの年金生活者にとって、大きな問題は、定期的に、期日通りに年金を受け取れるかどうかである(Moldova 1997)。アゼルバイジャンでは、1995年の年金が1991年より4%減少した(Azerbaijan 1997)。アゼルバイジャンのバクーに住むある年金生活者は、以前、レントゲン技師や電話交換士として働いていたが、極度のインフレのために、彼女の年金と貯金は事実上価値のないものとなってしまった。「私は昔、ミンクのコートを着ていましたが、今では、1足の靴を買う余裕さえありません」と彼女は話す。彼女は、少額の年金で生計を立てているため、家財の売却を余儀なくされている。彼女は、もはや、結核治療のために医者に診てもらうことも薬を買うこともできない。そして、彼女の食事は、主にマーガリンとパスタである(Azerbaijan 1997)。多くの年金生活者の中には、雇用先が見つからなかったり、身体的に働けなかったりする者もいれば、仕事を見つけて、国による援助以外の収入を得ている者もいる。今回のアゼルバイジャンのPPAによる質の評価は、仕事のある年金生活者は恵まれているという以前の調査と異なった結論を出している(Azerbaijan 1997)。仕事があるといっても、給料はとても少なく、仕事の安全性も不確実である。グルジアでは、年金の支払いの遅延もまた、高齢者にとって重大な問題となっている。依存できる家族のネットワークを持たない年金生活者は、最も弱い人々の一部分を構成している。その多くの高齢者は、物乞いをすることで生計を立てている(Georgia 1997)。また、病気や身体上の障害のために、働くことができない人々がたくさんいる。一方で、極度のインフレのために、生活の蓄えがあつという間になくなった人もいる。彼らは生きていくために、身の回りの物の売却を余儀なくされている。また、年金生活者の中には、小さい区画の土地で食物を栽培し、自給自足ができる者もいるが、身体上の障害や土地へのアクセスがないために、それができない者もいる。

子供達も飢餓の危険にさらされており、子供の多い家庭のほとんどが最貧困層である(Latvia 1998)。アゼルバイジャンの貧しい人々は、時には6歳の子供達が行きで物を買ったり、臨時の仕事をしたりと、児童労働が増加している点について述べている(Azerbaijan 1997)。アルメニアでは、家族が最も幼い子供達に十分な食事を与えようとしているが、子供達は、栄養失調や発育障害、くる病に苦しんでいる(Armenia 1995)。ラトビアの貧しい人々は、子供達は「高価な幸せ」だと言う。また、独身の母親が仕事を見つけて働こうとする時、子供がいるために制約が加わり、子供は母親の重荷となる(Ukraine 1996)。ウクライナの貧しい人は、「何も食べるものがなく、いつもおなかがすいています。何も着るものがなく、子供に

## Box 2.6 東欧と旧ソ連における高齢者の状況

私は、車を何台か買うことができるような金持ちとして夜床につきましたが、次の朝、目覚めると乞食となっていたのです。

—ウクライナのカルキフの年金生活者, Ukraine 1996

若者にさえ援助しないのに、誰が年金生活者に援助を与えるのでしょうか。私達、年金生活者は、病気でどうすることもできません。私達は、何も作れません。だから、誰が私達を必要としているのでしょうか。

—ウクライナで実施されたPPAの報告書より, Ukraine 1996

私達は、安定した家庭で孫の成長を喜ぶことを幸福な年金生活だと思い描いていました。しかし、現実はどうでしょう。子供達は私達を養うどころか、自分達の生活もままならないのです。もし私達の年金がなかったら、彼らは通りに出て、乞食をしなければならなかったでしょう。

—マケドニアで実施されたPPAの報告書より, Macedonia 1998

今日では死ぬことさえまなりません。先日、友達は母親を埋葬しました。葬式代は、5000万グリブナ(226米ドル)かかりました。その代金を払うために、彼らは、母親のレーニン像を380米ドルで売ったのです。では、子供達は、どうやって私を埋葬するのでしょうか。そのことを考えるといつもぞっとします。

—ウクライナで実施されたPPAの報告書より, Ukraine 1996

靴、ノート、ペン、鞆を買ってやるお金もありません。私の人生は悲痛でしかないので。私は生きていたいとさえ思いません。しかし、私はこの子達を産みました。だから、育てなければなりません。もし私に子供がいなかったら、ずっと前にロープを首に巻いて、首をつっていたでしょう」と述べる(Ukraine 1996)。

さらに、近年、多くの子供を持った女性に対する社会的制約が増えており、彼女達の多くは、は子供の出産を制限しようとしている。ウクライナでの中絶費用は、

## Box 2.7 難民と国内難民の脆弱性

国内難民になるぐらいなら、死んだほうがましだったのに。

—アゼルバイジャンの女性国内難民, Azerbaijan 1997

国内難民にとって、仕事を見つけることは大変困難なことです。なぜなら、彼らには、農業か畜産の知識が少なく、都市の生活に慣れることも難しいからです。

—以前は農民だったアゼルバイジャンの40歳の男性国内難民, Azerbaijan 1997

裕福な者だけが、明日を信じていることができる。

—アゼルバイジャンで実施されたPPAの報告書より, Azerbaijan 1997

爆撃のたびに私は2、3kgやせました。とても不安で、私達は皆、高血圧に苦しみました。

—アルメニアのアルメニア人難民, Armenia 1995

30～50米ドルだが、貧しい女性には手が出ない高額である。中絶が可能であるにもかかわらず、経済的困難や重圧が著しい時に、多くの子供を産む女性は間違っていると大多数の人が感じている。この考えは、貧しい家族にどのように援助を分け与えるかを決定する政府の職員の間にも存在する。援助を受けることができなかつたある貧しい人は、貧困家族の福祉を担当する市役所に交渉しに行くことをあきらめた。「私は怒るだけです。役人は私を侮辱し、独身の母親になったことを責めます。私がこんなにたくさん子供を産んだのが悪いともいいました。確かに彼らは正しい。しかし、子供達には何の罪もないんです！」と彼女は述べている(Ukraine 1996)。

調査報告書によると、国内難民(IDP)が最も弱い立場にいる者とされる。また、彼らは人道援助を受けることができるために、憎悪の対象となることもある。アゼルバイジャンのある人は、「私達が持っている物を売っている時に、難民と国内難民だけが人道的援助を受けられるのです。だから、私は国内難民を悪く思っています」と話す(Azerbaijan 1997)。もちろん、多くの難民や国内難民は、着のみ着

のまま、家やすべての財産を持たずに避難してきたので、売ることのできる財産など何も持っていない(Box 2.7)。

## 政府に対する姿勢

私達の政府はなんて政府なんだ。片方の手で援助し、もう1つの手で搾取するなんて!

—ウクライナで実施されたPPAの報告書より, Ukraine 1996

東欧や旧ソ連の政府に対する貧しい人々の姿勢は、複雑に絡み合った要因が関係している。その要因の主なものとして、多くの国民が抱く怒りがあげられる。それは、極度のインフレと広範囲にわたる失業を引き起こした財政運営上の多くの失敗に対する怒りである。貧しい人々は、彼らの貧困の状況、広くはびこる失業、貯金・賃金・年金の価値を下げたインフレ率を政府の責任だとしている。政府の職員が、最貧層の人を無視し、自らの富・影響力、個人的利益のために、貧しい人々の社会的・政治的地位を搾取した、と貧しい人々は信じている。それと同時に、貧しい人々は、これまで補助金や社会保障に依存していたため、彼らの問題を解決し、昔のようにその役割を再び担ってくれるのではないかという政府への期待も持っている。例えばグルジアにおいて、人々はよく、国家を「子供の世話をしなければならない親」とたとえる(Georgia 1997)。このため、多くの人々が、腐敗、非効率、過去の政府の貧困拡大に対する無関心さに怒りを表わしているのである(Box 2.8)。

多くの人々にとって、年金などの政府援助は、不十分かもしれないが、唯一の収入源である。しかし、社会支援を要求しようと試みる際に見られる政府の屈辱的な対応に、地域中の人々は不満をもっている。多くの人々は、官僚的で複雑な手続、無礼で、対応の遅い政府職員、情報の非開示に落胆する。マケドニアの貧しい人々は、「長い列に並んだ末、1つの受付から他の受付に回されます。事務員は、とても失礼で、必要なことも教えてくれません」と報告している(Macedonia 1998)。またある人は、社会支援を受給する際に、必要な書類をすべてそろえるのに1ヶ月も費やした。しかしその結果、番号札を渡され、1カ月後に再度来るようにと言われた。彼は羞恥心と怒りから、再びそこに行くことはなかった(Macedonia 1998)。アルメニアでは、あざけり笑われるためだけのようなわずかな金額しかもらえないので、年金に申し込むことさえ断る人がいる(Armenia 1995)。

旧体制下において、人々はコネを使って、物やサービスを手に入っていた。そして、たびたび贈り物や賄賂でその代償を支払っていた。これは何か物事を行う

## Box 2.8 政府に対する姿勢

政府がもはや期待されている必要な援助を与えないために、圧倒的多数の国民が、怒り、不満、裏切られたとの思い、棄てられたという気持ち、さらには意欲喪失を経験する。

政府がもはや期待できないものとなったため、人々は神に望みを託している。

—アルメニアで実施されたPPAの報告書より, Armenia 1995

政治家は苦しんでいる国民を気にも止めない。

—モルドバで実施されたPPAの報告書より, Moldova 1997

私達の指導者は市場経済国への移行を告げました。そして、私達にその移行を受け入れる用意があるかどうかも聞かず、運命のなすがままに委ねたのです。

—グルジアで実施されたPPAの報告書より, Georgia 1997

私は定年したとき、2万ルーブルを預金していました。それは車4台を買うことができる金額でした。しかし、私がお金を預けた政府は、一体そのお金をどう守ったのでしょうか。政府は預金を物価にスライドさせたために、預金が高インフレに食われてしまったのです！そのお金で今、パンや水さえ買うことができなくなってしまいました。さらに、政府は最低限度の生活ができるほどの年金さえ与えてはくれません。以前受け取っていた、132ルーブルの年金は快適な生活をするのに十分なものでした。しかし、今の年金では生き残れるかどうか分かりません。

—ウクライナで実施されたPPAの報告書より, Ukraine 1996

ために、誰もが認め、また政府職員からも期待されていた方法であり、重大な問題にもならなかった。しかし、近年、贈収賄は、より幅を利かせ、過激になり、ほとんどの人が用意できる以上の賄賂を渡さなければならない困難さが生じてきて

いる。雇用、保健・医療、社会サービスすべてに賄賂が必要なほどである。グルジアのある人は、「最近、電話会社で『400米ドル払ったら、明日通話できるようにしてあげよう』と言われました。これは市場に基づいた人間関係です!」と述べている。またある人は、「もしあなたが賄賂を払わなければ、勉強してもしなくても一緒です。しかし、お金があれば、頭が悪くても医学部に入ることができるのです」と述べている(Georgia 1997)。

社会的・政治的移行を伴うベルリンの壁の崩壊は、全く正反対の経験をしてきた旧社会主義国地域に、新しく、未曾有の自由をもたらした変革だったと西側諸国のほとんどは理解している(付録7 図2.1、2.2参照)。グルジアでは、「人々は自由の欠如から貧困を連想する。彼らは不景気や、将来どうなるかという不安からの日々の重圧で押しつぶされそうになっている」(Georgia 1997)。

## 注記

1. 貧困の程度を調査する様々な方法を論評している多くの学術的研究には次のようなものがある。Sen 1997; Foster and Sen 1997; Lipton and Ravallion 1995。実践的で貧困を量的に計る議論についてはGreeley 1994参照。参加型で質的な貧困情報の収集についてはChambers 1994; Salmen 1987; Cernea 1985; Carvalho and White 1998参照。

2. 1998年にグジャラートで起こったサイクロンは、460万人の人々に影響を与え、1241人が死亡し、2万1933匹の牛を死に至らしめた。Bhatt 1999参照。オリッサ州で1999年に起こったサイクロンによる被害の数はさらにひどいものであった。

3. Agarwal 1992参照。ジェンダー関係と南アジアにおける飢餓と干ばつへの対処に関して論じている。